

2020年新型コロナウイルス感染症拡大初期の情報行動と社会心理

Information Behavior and Social Psychology at an Early Stage of the COVID-19 Pandemic in 2020

石橋 真帆 Maho ISHIBASHI

安本 真也 Shinya YASUMOTO

朱 沁怡 Qinyi ZHU

岩崎 雅宏 Masahiro IWASAKI

関谷 直也 Naoya SEKIYA

目 次

1. 調査目的・概要
 - 1.1 調査背景・目的
 - 1.2 調査概要
 - 1.3 調査対象の特徴
2. 生活への影響と不安感
 - 2.1 生活への影響と政府への評価
 - 2.2 不安感の経時的変化
 - 2.3 認知と不安
 - 2.4 自分自身が感染する不安、同居人が感染する不安
 - 2.5 具体的な不安要素
3. 情報行動・情報認知
 - 3.1 情報行動の変化
 - 3.2 役に立った情報源
 - 3.3 情報認知
4. うわさ
 - 4.1 「トイレットペーパーパニック」の周縁
 - 4.2 うわさの流布状況
5. 新型コロナウイルスの感染防止行動
 - 5.1 感染防止の取り組み
 - 5.2 外出に関する自粛
 - 5.3 公共交通機関の利用状況
 - 5.4 テレワークの状況

6. 購買行動の変化

7. 自粛要請・ロックダウンについての意識

附属資料（アンケート調査の単純集計）

キーワード：新型コロナウイルス感染症、情報行動、うわさ、感染防止行動、東京都外出自粛要請

執筆分担：

石橋 真帆（東京大学 学際情報学府博士課程）	1. ～3.
安本 真也（東京大学 学際情報学府博士課程）	5.
朱 沁怡（東京大学 学際情報学府修士課程）	4.
岩崎 雅宏（株式会社 サーベイリサーチセンター 営業企画本部）	
関谷 直也（東京大学 大学院情報学環総合防災情報研究センター）	6. ～7.

1. 調査目的・概要

1.1 調査背景・目的

2020年は全世界の人々にとって混乱の年となった。事の始まりは2019年12月31日に発見された中国武漢における原因不明の肺炎患者である（WHO, 2020a）。翌年の2020年1月に原因不明とされていた当該症状は新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）によるものと判明した（WHO, 2020a）。「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）」と命名された当該感染症は2020年1月31日の時点で、中国にて合計11,791件の症例および259人の死亡例を出すほどに蔓延した（中华人民共和国国家卫生健康委员会, 2020）。

その後、強い感染力を持った新型コロナウイルスは瞬時に全世界に拡散した。すでにイタリアを始めとする欧州で猛威を振るい始め、その他の国々にも飛び火しつつあった当時の流行状況を踏まえ、WHOのテドロス事務局長は2020年3月11日に新型コロナウイルス感染症の流行を「パンデミック（感染症の世界的流行）」と宣言した（WHO, 2020b）。無論、日本も例に漏れずその惨禍を被ることとなる。

新型コロナウイルス感染症の蔓延は感染それ自体の実害に留まらず、人々にあらゆるリスク（e.g. 失業によって経済的に困窮するリスク、感染源特定のための追跡調査によって行動履歴等の個人情報第三者に露呈するリスク等）をもたらし、人々の心理や行動に多様な変化をもたらした。加えて、それらリスクに構造的変革によって対応せんとした行政やメディア報道などによっても、人々の社会環境は大きく変化した。例えば、2020年3月2日より実施された公立学校の休校措置、3月25日に東京都に出された「自粛要請」、そして4月16日より全国的に発された緊急事態宣言等は人々の「日常」を大きく揺さぶることとなった。また、その他にも新型コロナウイルス感染症による著名人の逝去等が報道され、人々は不安や危機感を抱いた。

以上のように、2020年の新型コロナウイルス・パンデミックの下では、新興感染症それ自体のリスクや付随する制度の変革、そして人々の社会環境、心理、行動が相互に呼応することで、社会全体がダイナミックに変化していったと言えよう。この未曾有の事態における社会の変化を、人々の心理、行動を中軸として明らかにするため、本稿執筆者を中心として、3月初旬および4月初旬に日本国民を対象とした2回のオンライン調査を行った。日本における当時の流行状況とえば、国内感染者は3月調査前日において累計318名（2020年3月5日時点；厚生労働省, 2020a）、4月調査前日において累計2381名（2020年4月2日時点；厚生労働省, 2020b）であり、本項執筆時の累計感染者数375,607名（2021年1月27日時点；厚生労働省, 2020c）と比較すれば感染初期と見なすことができる。このような日本の流行初期における調査研究は、人々の心理的变化を即時的に捉えた資料として貴重なものと言えよう。そこで、本稿では当該調査の記述および整理をもとに、人々

の心理や諸活動の実態、特に情報行動や感染症に関連する生活実態の変化について幅広く論じていく。

なお、本稿において用いた調査結果の一部は石橋ら（2020）として報告済みである。しかし、先述のように、ここでの目的は2回に渡り行われた調査から観測される人々の生活実態の特徴について、全体的な記述を行うことである。ゆえに、調査全体の収集データについて結果を記述することが望ましいと判断し、既発表部分についても掲載している。

1.2 調査概要

先述のように、2回にわたる本調査は新型コロナウイルス感染症によってもたらされた情報行動や生活実態の変化を把握することを目的として行われた。詳細は以下に示すとおりである（表 1.2.1）。

また、設問内容は目的に沿って、人々の生活実態を幅広く反映できるよう多岐にわたる内容が含まれた（表 1.2.2）。本稿ではこれらの単純集計結果をもとに論じていく。

表 1.2.1 調査概要（石橋ら，2020；一部を改訂）

<p>【調査1】 調査名称：【緊急調査】新型コロナウイルス感染症に関する国民アンケート 調査地域：各都道府県 100 票，計 4700 票 調査機関：株式会社サーベイリサーチセンターSRC 情報総研 調査対象：20 歳以上の個人（性・年代均等割り付け） 調査方法：WEB 調査 有効回答：4700 票 調査期間：2020 年 3 月 6 日～3 月 9 日</p>

<p>【調査2】 調査名称：【第2回】新型コロナウイルス感染症に関する国民アンケート 調査地域：各都道府県 100 票，計 4700 票 （補完サンプル：東京都 n=500・大阪府 n=300・愛知県 n=300 あり） 調査機関：株式会社サーベイリサーチセンターSRC 情報総研 調査対象：20 歳以上の個人（性均等割り付け）※ 調査方法：WEB 調査 有効回答：4700 票（+補完サンプル） 調査期間：2020 年 4 月 3 日～4 月 6 日</p>

調査 1、2 は同一サンプルの予定であったが、離脱が見られたため、サンプルの補填を行った。各都道府県のモニター数の限界から、年代に関しては均等割付とならなかった（20 代：939、30 代：941、40 代・50 代・60 代：940）。

表 1.2.2 設問内容

情報に関する項目	情報行動
	新型コロナウイルスに関する情報認知
	新型コロナウイルスに関する情報源
	情報認知と不安
	うわさの認知
生活実態	生活への影響
	感染防止行動
	自粛状況
	公共交通機関の利用
	購買行動
	テレワーク状況（第2回のみ）
心理	新型コロナウイルスに関連する不安（日本にウイルスが広がる不安、自分自身が感染する不安、重篤化・死への不安、同居人が感染する不安）
属性	リスク要因（高齢、基礎疾患の有無）
	同居人の属性
その他	政府の感染症対策への評価
	テレビの情報提供への評価

1.3 調査対象の特徴

新型コロナウイルス感染症は、高齢者や基礎疾患を持つ人がとりわけ重症化しやすいという特徴を持つ。すなわち、高齢であることや、基礎疾患の保有はリスク要因となり、それらの要因を持つ人は、パンデミックに対して、他の属性の回答者と異なる意識を持つと考えられる。さらに、自分自身のみならず、他者に「感染させてしまう」リスクをも孕む感染症の特徴から、重症化リスクが高い人と同居する人もまた、同様と考えられる。

加えて、子どものような一般的な「弱者」を持つ親や他の家族についても、感染症への不安が高まるだろう。そこで、本調査における高齢者（65歳以上）、基礎疾患保有者および、同居人がいる人（調査1: N=3921, 調査2: N=3930）のうち、高齢者（65歳以上）、基礎疾患保有者、子ども（乳幼児、小学生、中学生、高校生）と同居する回答者に関しては、分析に応じてそれらの属性を考慮する。各属性該当者の割合を図 1.3.1、図 1.3.2 に示す。

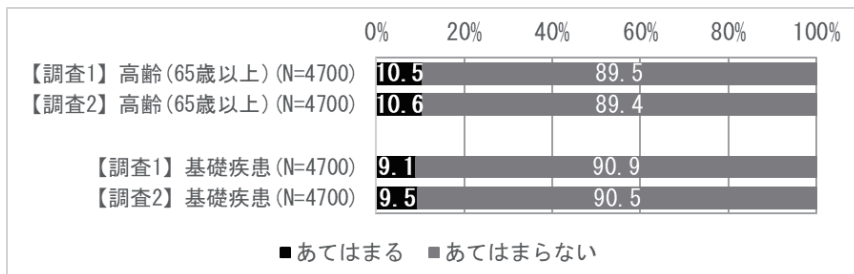


図 1.3.1 リスク属性該当者の割合

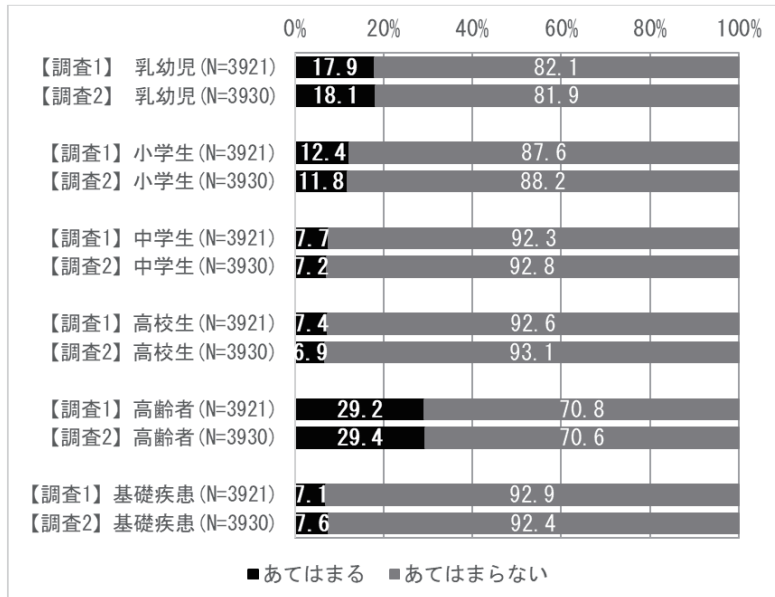


図 1.3.2 各属性該当者と同居する人の割合（母数は同居人がいる人）

2. 生活への影響と不安感

本章では、新型コロナウイルス感染症流行下における本邦の人々の全般的な生活実態¹への影響、および不安感について述べる。

2.1 生活への影響と政府への評価

まず、新型コロナウイルスの流行が人々の「日常」にいかなる影響を与えたのかを把握する。図 2.1.1 に示すのは、人々の生活に及んだ多様な影響に関する回答結果である。まず調査 1、調査 2 を比較すると大半の項目において調査 1 時点のほうが多くの人に影響を感じている様子が伺える。中でも「オリンピック・パラリンピック開催への影響」に関しては 3 月時点に行われた調査 1 のほうが 28.0%と高い値を示しており、調査 2 時点では 8.8%と大きく回答率が低下している。また、同様に調査 1 と調査 2 の間で大きく回答率が変化しているものとして「コンサートや観劇、スポーツ観戦などへの影響」（調査 1: 27.1%; 調査 2: 13.2%）が挙げられる。オリンピック、そしてコンサート等については、調査 2 時点で既に延期や自粛の動きが広がっていた²。いわば、全体的な「自粛ムード」が常態化していた調査 2 の時点ではさほど「影響」というほどの生活の変化は感じられなかったと考えられる。

また、項目ごとに比較を行ってみると、「買い物での品薄・品切れに対する判断」（調査 1: 60.4%; 調査 2: 55.5%）、「外出や移動が気になり」（調査 1: 58.2%; 調査 2: 47.9%）、「経済や景気の影響」（調査 1: 50.5%; 調査 2: 40.9%）、「漠然とした不安が続くこと」（調査 1: 47.9%; 調査 2: 46.0%）について半数前後の回答率が得られている。いずれも生活において基礎的な行動や、一般的心理状態に関わる項目である。つまり、流行初期の人々の日常生活においても、新型コロナウイルスの存在が一定程度精神的・物理的に影響を与えていたと言えよう。

なお、各項目内容についての回答は、回答者が属する社会環境に大いに依存すると考えられる。例えば、「こどもの学校再開や新学期などへの備え」はこどもを持つ家庭でなければ影響は受けないだろう。実際、当該項目に関する回答率は、乳幼児・小学生を持つ家庭に限定すると調査 1 時点で 50.2%、調査 2 時点で 51.2%にまで上昇した（単純集計結果、結果の表記は省略）。すなわち、新型コロナウイルス・パンデミックにおいてはどのようなセクターに属する人が影響を受けやすいかを見極め、適切な政策決定を行うことが重要と言える。

¹ 感染防止行動や外出自粛等、新型コロナウイルス・パンデミック特有の行動については第 5 章及び第 6 章にて述べる。

² 2020 年 2 月 20 日より安倍首相（当時）はイベント自粛に関する声明を公表している（厚生労働省、2020d）。

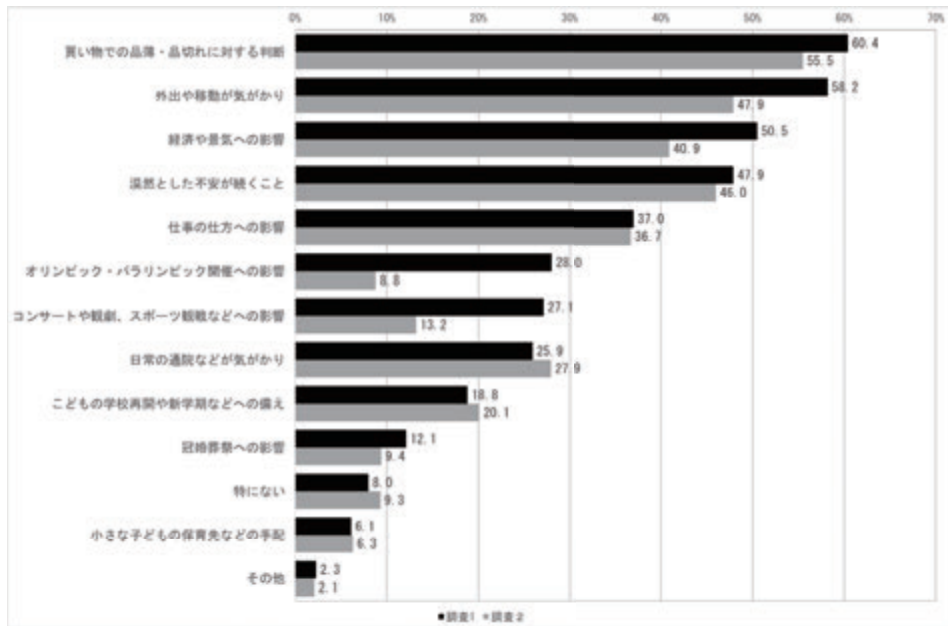


図 2.1.1 生活への影響 (N=4700)

次に、パンデミック下における影響のより主観的な側面、心身の状況について調査2で尋ねた結果を示す(図2.1.2)。4月初旬では未だ4月16日の「緊急事態宣言」のような対策が取られていなかったためか、自粛によるストレスや疲れを感じている人(「とてもそう思う」および「ややそう思う」)は50%未満に留まっていた。項目間の関係を見ると、「テレビが新型コロナウイルスの話題ばかりで疲れた」(55.8%)、「品切れなどでほしいものが手に入らず、ストレスが増えた」(51.3%)、「新型コロナウイルス感染への対策を行うことに疲れた」(46.3%)において肯定的回答が多い。行動の自粛というよりは、新型コロナウイルスによる社会環境の変化に対する疲れがあったことが伺える。

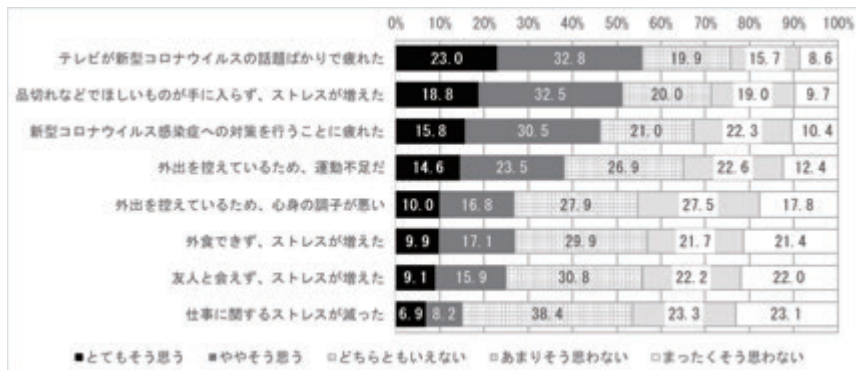


図 2.1.2 新型コロナウイルス・パンデミック下における心身の状況 (調査2, N=4700)

このように、あらゆる影響が国民の生活や心身に及ぶ中、感染症に端を発するあらゆる問題に対し適切に働きかけることで、国民の不安を除くことが政府には求められよう。そこで、回答者に対し政府が行った感染症対策についての評価を尋ねた（図 2.1.3）。

結果として、全般的に政府への評価は高くないといえる。しかし、「イベントなどの自粛の要請」以外の項目については調査 1 時点よりも調査 2 時点で評価が改善している様子が伺える。推測するに、4 月初旬前後では 3 月 20 日のイベントの自粛要請や 3 月 30 日のオリンピック・パラリンピックの延期といった具体的な政府の感染症対策が周知されたためと考えられる。また、3 月調査時点までには日本で感染が広まる象徴的な事象が数多く報告されたため（e.g. ダイヤモンド・プリンセス号における集団感染）、それらを政府の瑕疵と見る人々が多く、相対的に調査 2 よりも評価が低くなったのではないかと考えられる。

また、項目別に見ると、否定的回答（「やや悪いと思う」と「悪いと思う」の合計）が多かった項目として「国内での感染を防ぐ水際対策」（調査 1：56.8%，調査 2：52.5%）、「感染に関する検査（PCR 検査）」（調査 1：57.6%，調査 2：48.1%）が挙げられる。情報開示等も重要には変わりないが、優先的に目の前の脅威を討つ、効果的な政策の推進が求められていたと言えよう。

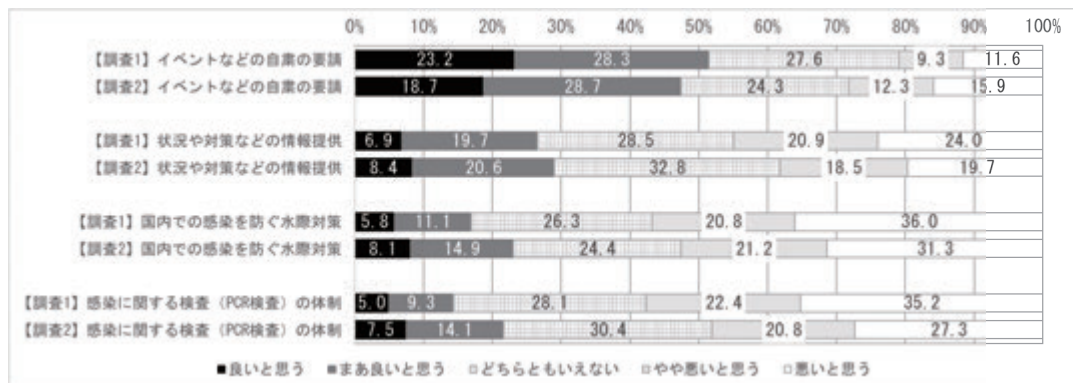


図 2.1.3 政府の感染症対策への評価（N=4700）

2.2 不安感の経時的変化

次に、新型コロナウイルス、あるいはその流行に対して抱かれた人々の不安について理解する。本節では、「日本でウイルスが広がる不安」「自分自身が感染する不安」「重症化・死への不安（調査 2 のみ）」の時系列に沿った変化の様子を捉える。そこで、日本における新型コロナウイルス流行期に起きた象徴的な事象の時点毎に、前述の不安を抱いたか否か尋ねた（図 2.2.1）。

なお、調査1と調査2では基本的に異なる事象（調査1はおもに2019年12月31日～2020年2月、調査2は2020年3月）について抱いた不安を尋ねているが、重複する事象もいくつか含まれていた。そこで、補足的にそれらの重複事象に対する不安の回答結果も図中に示している（図2.2.1 中点線部）。調査1と調査2双方にて示した事象に関する結果は異なっており、調査2における不安感の方が概して低くなっている。これは調査1時点のほうが質問票における提示事象から時を経ておらず、それら事象に関わる記憶が維持されていることが関連していると考えられる³。そこで、2019年12月31日から2020年2月18日の事象については、記憶がより新しい調査1時点のほうが適切に調査回答者の心理が反映されていると見なし、前述の期間については調査1を、2020年3月6日以降については調査2の結果を参照する。ただし、調査2のみ測定を行った「重症化・死への不安」については全期間において調査2の結果を参照する。

結果として、着目すべき点は2点ある。第一に、不安感の質による、その高まり方の差異である。2019年12月31日（中国で、武漢市が「原因不明の肺炎27人」を発表）時点では、「自分自身が感染する不安」（15.2%）よりも「日本でウイルスが広がる不安」（37.0%）のほうが高かった。また、直後の2020年1月23日（中国で、武漢市を封鎖措置）に関して測定された「重症化・死への不安」についても、「自分自身が感染する不安」と同様、18.1%と比較的低い値を示している。また、各不安感についてその後の変化を追うと、「日本でウイルスが広がる不安」に関しては既に2020年1月28日（国内で初の日本人患者を確認）時点で84.4%と多くの人不安感を抱いており、その後ほぼ8割～9割前後の値を保ち続けている⁴。

一方で、その他2つの不安（「自分自身が感染する不安」「重症化・死への不安」）については、いくつかの時点で急激に上昇する傾向が読み取れる。例えば、「自分自身が感染する不安」については2020年2月28日（政府が3月2日から春休みまで、小中高校などの臨時休校を要請）の際に、直前の52.4%から不安を感じる人の割合が増加し、67.4%となっている。また、2020年3月25日（東京都知事が会見で、週末の外出を控えることなどを要請）、および3月30日（タレント志村けんさんの死去）の際も、「自分自身が感染する不安」（2020年3月24日より、56.8%→71.4%→78.6%）、「重症化・死への不安」（39.9%→52.2%→68.0%）双方の値が大きく増加している。

³ 野村（2017）は現在から過去へ記憶を遡行する調査アプローチである「回顧法」について、回答者の記憶の不確かさや歪みを問題点として指摘している（p118.）。本質問も過去を想起するという点で、同様の問題が考えられる。

⁴ 2020年3月6日時点では77.6%まで下がっているが、これは先に述べた通り、調査時点における当該事象に関わる記憶保持の問題によると考えられる。

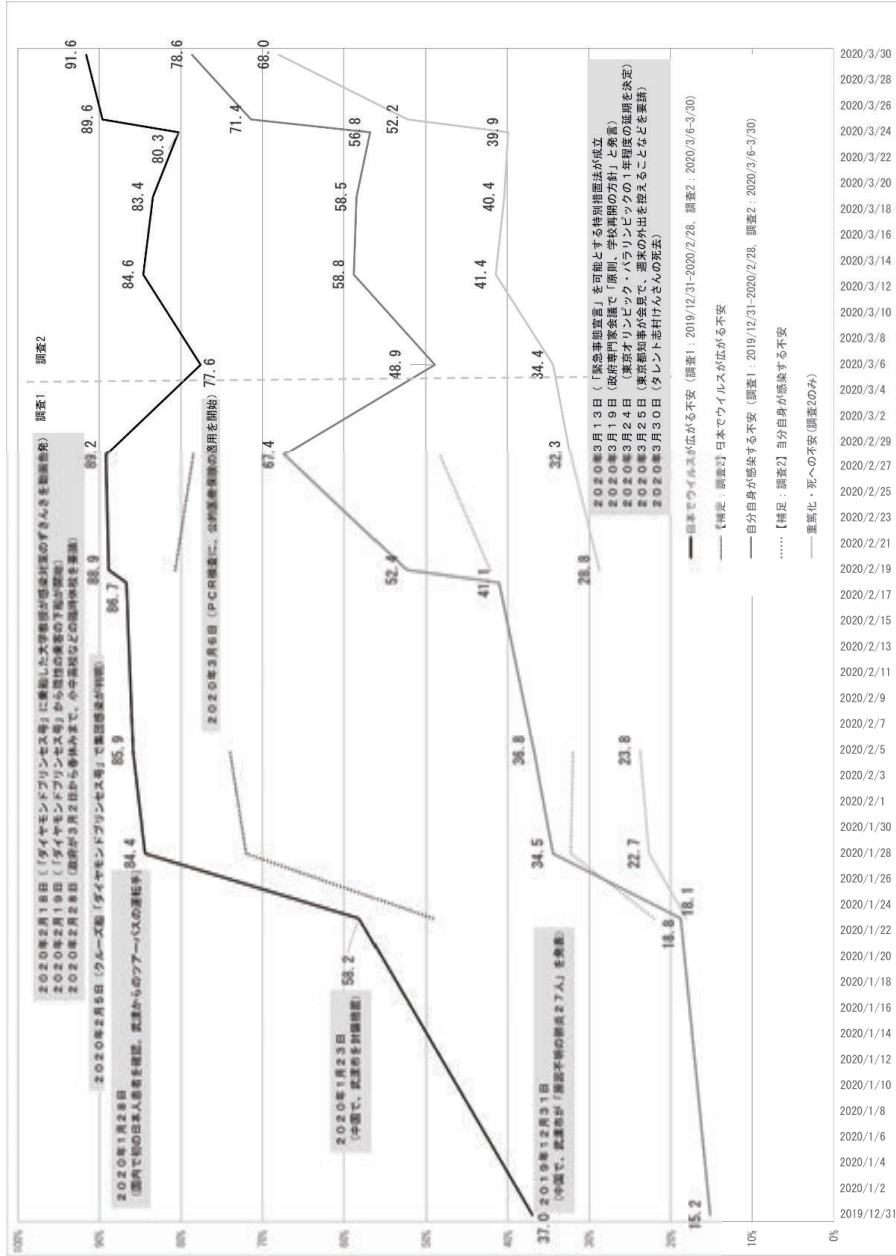


図 2.2.1 不安感の経時的変化 (実線は調査 1: 2019/12/31-2020/2/28 および調査 2: 2020/3/6-3/30, 点線は調査 2: 2020/1/23-2/28, N=4700)

このように、不安感と言っても、それが一般的状況（日本全体にウイルスが広がる状況）に関するものか、個人の状況に関するものか（自分自身の感染や重症化・死亡）によって高まり方が大きく異なると言えよう。また、少なくとも新型コロナウイルス感染症に関しては一般的状況への不安が先行すると考えられる。

第二に着目すべき点として、3つの不安感に共通し、影響を与えたと推測される事象の存在が挙げられる。具体的には、2020年1月28日（国内で初の日本人患者を確認）、3月13日（「緊急事態宣言」を可能とする特別措置法が成立）、そして3月25日（東京都知事が会見で、週末の外出を控えることなどを要請）および3月30日（タレント志村けんさんの死去）において、いずれの不安感も高まる傾向が見て取れる。特に、3月25日の自粛要請後に実際に人々の外出自粛が見られたこと、また、志村けん氏の死去は他の研究においてもその心理的影響力が指摘されていることを踏まえると（cf. 鳥海ら, 2020; 橋元ら, 2020, p24-25.）、これら2つの事象は国民に特に強い影響を与えたとと言える。

2.3 認知と不安

前項では社会的事象に付随する不安感の経時的変化を捉えた。本節でも同様に、社会事象に付随する不安感について論じるが、先とは異なり情報認知の観点を踏まえる。具体的には、前項で取り上げた各事象、および海外における事象について、どの程度の人が当該事象を把握した上で不安を抱いているのかを把握した。

まず、日本に関する事象についての結果を図2.3.1に示す。結果として、最も「知っていて不安を感じる」と答えた人が多かった事象は2020年3月30日（タレント志村けんさんの死去; 87.7%）であり、2020年3月25日（東京都知事が会見で、週末の外出を控えることなどを要請; 80.5%）が続いた。これらの事象に対し不安が高いということは、先の不安感の変化に関する結果と一貫しているが、そもそも人々の認知度自体が他の事象と比較して高かったと分かった。

また、海外の事象についても、情報認知と不安感の程度を尋ねた（図2.3.2）。本結果を先の日本の事象に関する結果と比較すると、全体的に認知度や不安の程度の低さが伺える。しかし、中でも「イタリアでは1万人以上がなくなった」は認知度（「知っていて不安を感じる」と「知っているが不安を感じない」の合計）が91.0%と高く、その上で不安を抱えている人も74.6%と多かった。一方で、「台湾では、ビッグデータを活用した感染症対策を行っている」については隣国にも関わらず認知度が比較的低い結果となっていた（認知度: 67.6%）。

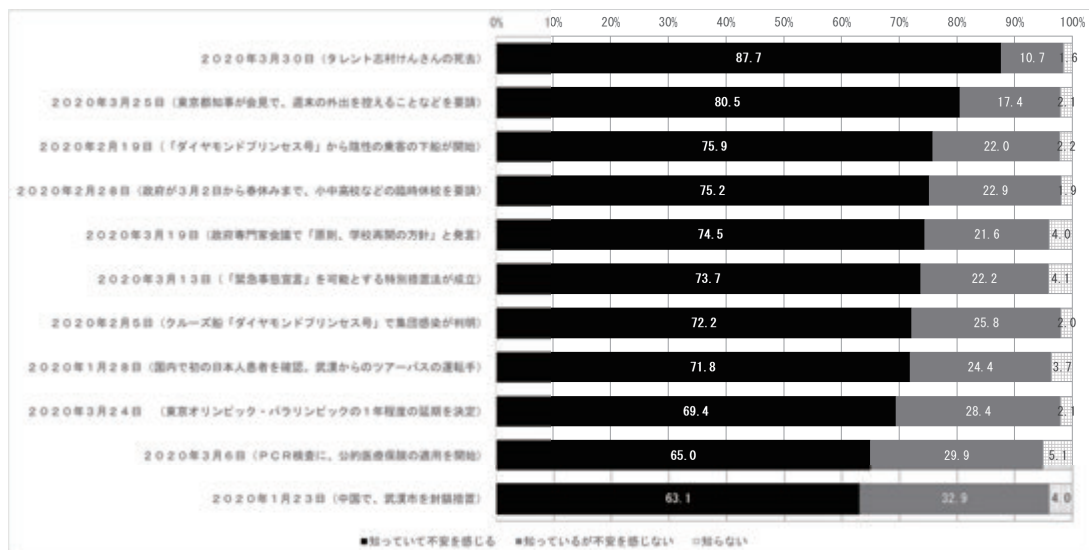


図 2.3.1 情報認知と不安 (日本国内の事象, N=4700)

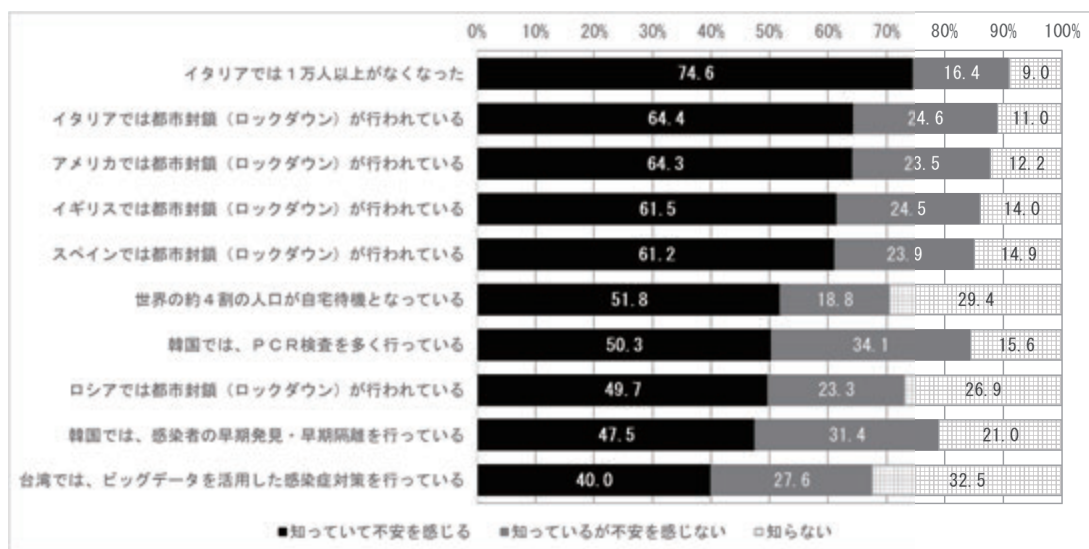


図 2.3.2 情報認知と不安 (日本国外の事象, N=4700)

2.4 自分自身が感染する不安、同居人が感染する不安

次に、調査時点における自分自身が感染する不安、および同居人が感染する不安について述べる。まず、自分自身が感染する不安についての結果が図 2.4.1 である。調査 1 と比較して調査 2 では「とても不安を感じる」と答えた人の割合が大幅に増加していることが見て取れる（調査 1: 24.9%、調査 2: 44.4%）。

一方で、全体的に不安感の上昇が伺える調査 2 時点においてもなお、8.4% の人は不安を感じていないと答えている。そこで、該当する 8.4%（N=394）の回答者に不安を感じない理由を尋ねた。結果が図 2.4.2 である。理由としては回答率が高いものから、「ウイルスに対して、気を付けるべき注意点がわかってきたから」（29.6%）、「重篤な状態になったり、死に至る確率が低そうだから」（29.6%）、「自分が感染することはないと思っているから」（21.5%）となっている。つまり、ウイルスに対して理解しているという意識や、感染・死への楽観によって不安感が抑えられていると言える。

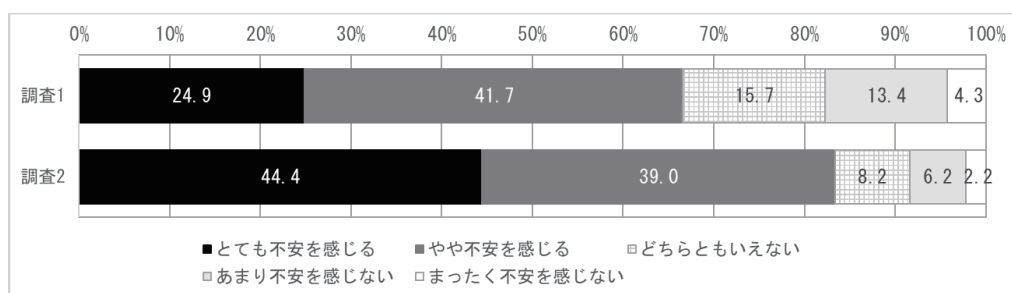


図 2.4.1 自分自身が感染する不安（N=4700，石橋ら，2020 を改訂）

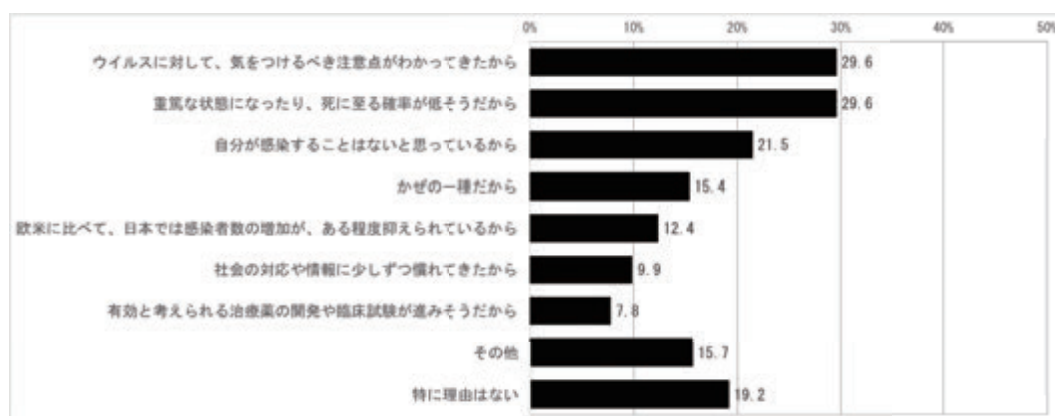


図 2.4.2 自分自身が感染する不安を感じない理由
（調査 2 のみ・複数回答，N=395，石橋ら，2020 を改訂）

続いて、同居人が感染する不安について図 2.4.3 に示す。ここでは高齢者、基礎疾患、乳幼児の同居人がいる人に回答を求めた。結果として、いずれも調査 1 より調査 2 時点のほうが感染する不安感が高まっており、項目間で比較を行うと乳幼児（調査 1：87.2%，調査 2：92.7%）、基礎疾患（調査 1：84.2%，調査 2：91.0%）、高齢者（調査 1：71.3%，調査 2：86.5%）の順に感染する不安が高かった。乳幼児や基礎疾患を持つ人は通院等外出機会が必要な場合が多いが、高齢者は疾患がなければ、人と接触しなくとも過ごすことが可能である。感染しないよう行動を比較的制御可能であることから、高齢者に対する相対的な不安が低くなったのではないかと考える。

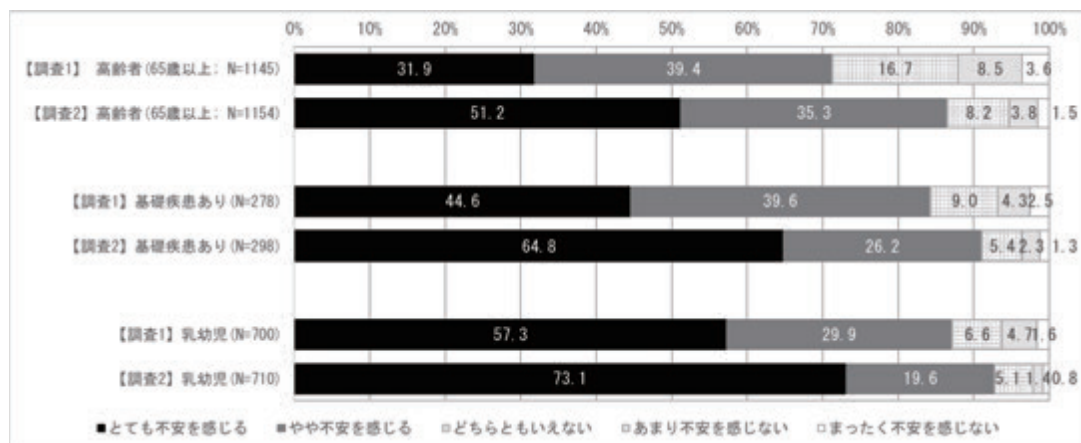


図 2.4.3 リスク要因を持つ同居人が感染する不安
(サンプルは該当する同居人がいる人のみ、石橋ら，2020 を改訂)

2.5 具体的な不安要素

2 章 1 節で明らかになったように、新型コロナウイルスは健康に関するリスクを人々にもたらすのみならず、生活のあらゆる側面に影響を与えた。そこで、具体的にどのような対象・事象に不安を抱いたのか、不安の要因について尋ねた結果が図 2.5.1 である。

結果として、各調査において「いつまで続くのか、見通しがわからないこと」が最も多くの肯定的回答（「とても不安を感じる」「やや不安を感じる」の合計）を得た（調査 1：84.8%；調査 2：88.8%）。その他では、「効果的な治療薬やワクチンがないこと」（調査 1：81.4%，調査 2：86.9%）、「ウイルスが目に見えないものであること」（調査 1：77.0%；調査 2：82.8%）、「日本でも感染者の爆発的な増加が起り得ること」（調査 2 のみ：87.1%）等について多くの人が不安を感じていた。

また、調査 1、2 におけるすべての同一質問について、調査 2 の時点のほうが、調査 1 より「とても不安を感じる」の回答割合が高かった。新型コロナウイルス感染症が日本で拡大するにつれ、あらゆる生活や心理的側面において強い不安が喚起されたものと考えられる。

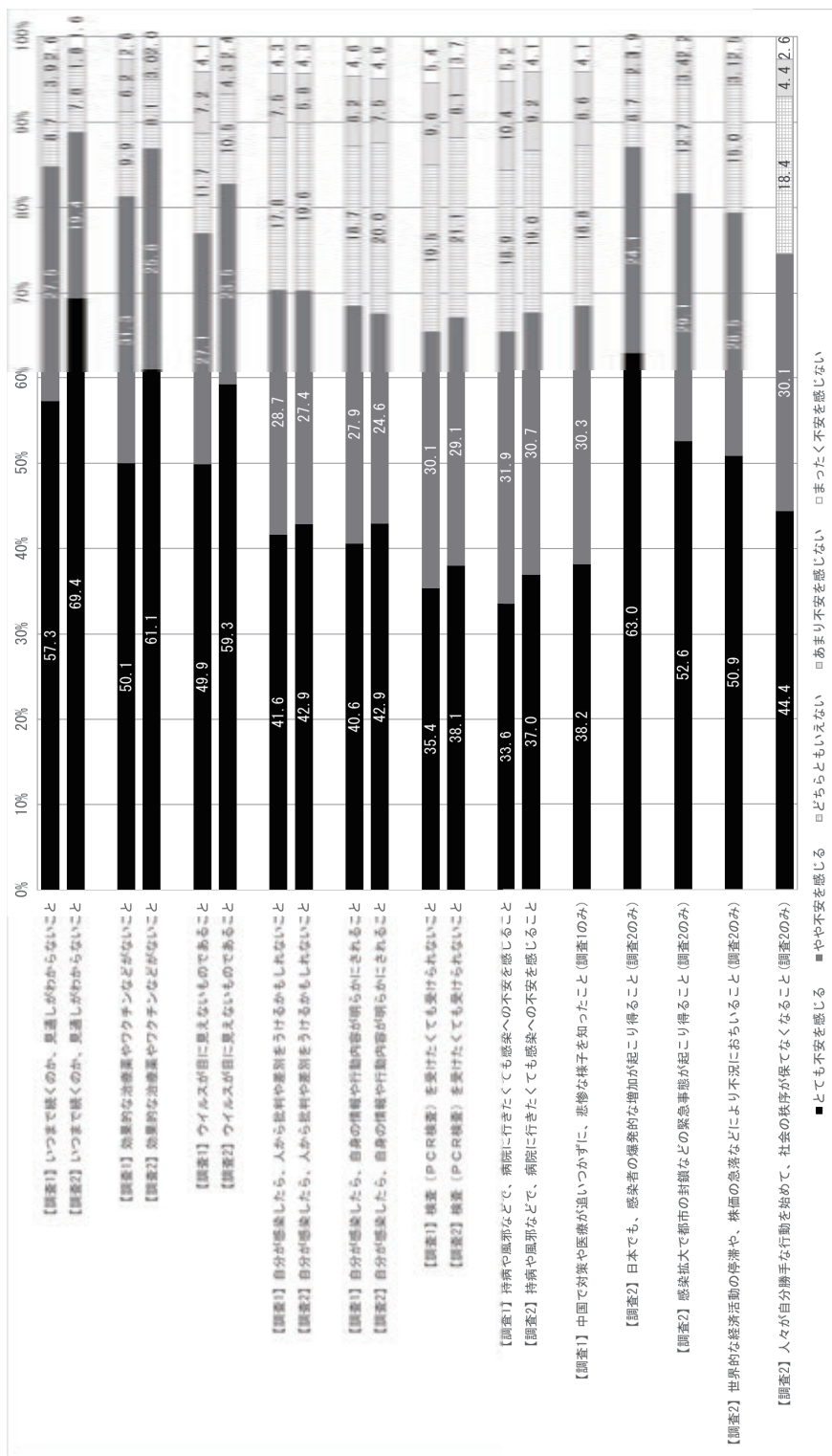


図 2.5.1 具体的な不安の要素 (N=4700)

3. 情報行動・情報認知

本章では、パンデミックにおける情報行動の変化や特徴を把握する。また、本邦の流行初期における人々の新型コロナウイルス関連用語に対する認知も併せて検討する。

3.1 情報行動の変化

図 3.1.1 に示すのは、ふだん（新型コロナウイルスの流行前）、ここ 1 週間（調査 1 回答時）、ここ 1 週間（調査 2 回答時）におけるメディアの平均利用時間⁵である。なお、質問項目に対しては「全く利用しなかった」「30 分未満」「30 分以上 1 時間未満」「1 時間以上 1 時間 30 分未満」「1 時間 30 分以上 2 時間未満」「2 時間以上 3 時間未満」「3 時間以上 4 時間未満」「4 時間以上 5 時間未満」「5 時間以上 8 時間未満」「8 時間以上」より回答を求め、数値換算して分析を行った⁶。結果として、全体平均ではメディア利用時間に若干の変化が見られたが、特徴的なものは見られなかった。利用者平均ではラジオ、新聞、雑誌についてメディア利用時間が調査を経るごとに高まる傾向が伺えた（ラジオ：1.43 時間/1.63 時間/1.79 時間；新聞：0.81 時間/0.94 時間/1.12 時間；雑誌：0.80 時間/0.95 時間/1.33 時間<値は左からふだん/調査 1/調査 2 における利用時間>）。また、インターネット[パソコン]についてもわずかに利用時間が延びていた。しかし、これらのメディア利用時間の変化も決して大きいものとはいえず、新型コロナウイルスの流行がメディア利用全般の量的側面に強い影響を与えたとは言い難い。

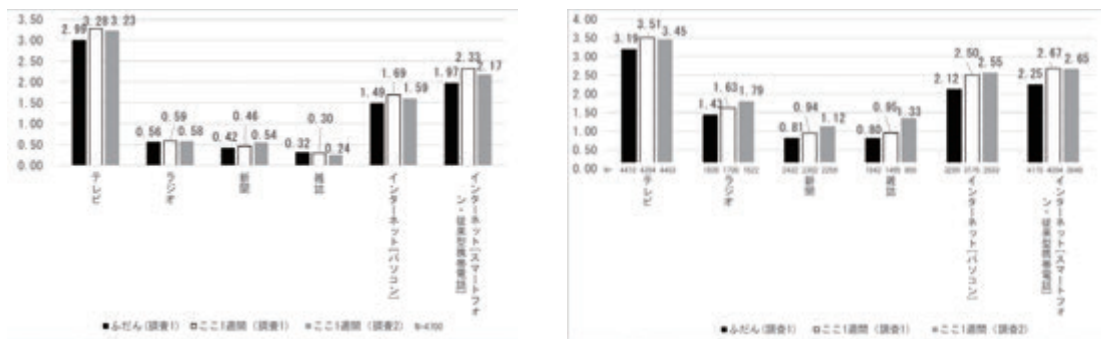


図 3.1.1 メディア平均利用時間の変化(左: 全体, 右: 利用者, 単位: 時間, 石橋ら, 2020 を改訂)

⁵ ここで検討するのは、新型コロナウイルスの情報取得以外の用途も含むメディア利用である。なお、「ふだん（新型コロナウイルスの流行前）」については調査 1 の際に想起して回答するよう求めた。
⁶ 平均利用時間については「全く利用しなかった」=0 時間、「30 分未満」=0.5 時間、「30 分以上 1 時間未満」=0.75 時間、「1 時間以上 1 時間 30 分未満」=1.25 時間、「1 時間 30 分以上 2 時間未満」=1.75 時間、「2 時間以上 3 時間未満」=2.5 時間、「3 時間以上 4 時間未満」=3.5 時間、「4 時間以上 5 時間未満」=4.5 時間、「5 時間以上 8 時間未満」=6.5 時間、「8 時間以上」=8 時間として分析した。

3.2 役に立った情報源

次に、新型コロナウイルスに関する情報取得に焦点を当てる。図 3.2.1 は、新型コロナウイルスに関する情報取得において、回答者にとって役に立った情報源を示している。最も回答率が高かった情報源はテレビであり（調査 1, 80.7%; 調査 2, 82.3%）、次にインターネット（調査 1, 51.4%; 調査 2, 48.5%）であった。その他、新聞や SNS にも一定の回答が見られるが、やはりテレビが 8 割と多くの人に利用される傾向にあったと言える。

また、先述のテレビ利用、特にテレビ報道について評価を尋ねた結果が図 3.2.2 である。「どのように予防対策や行動をすれば良いか、わかりやすかった」という項目に関して、調査 2 時点では半数程度までの肯定的回答を得ており（そう思う：12.6%, ややそう思う：37.9%）、テレビが情報の整理や伝達に一定程度貢献したことが伺える。しかし、否定的な評価に関する項目（「不安を煽るような映像や表現が多かった」「何が正しい情報なのか分かりにくかった」）について肯定する回答も半数弱ほど見られる。

また、調査 1、2 それぞれにおける回答を比較すると、特にテレビを評価する質問項目（「どのように予防対策や行動をすればよいか、わかりやすかった」「事実を適切に伝えている放送が多かった」「医学や保健・衛生の難しい点をわかりやすく伝えられていた」「国民（視聴者）に対して、安心や冷静さにつながる放送が多かった」）について 10% 前後、肯定的回答が増加している様子が見られる。

以上を踏まえると、国民の中には肯定・否定的評価の双方が存在しながらも、テレビは情報収集に活用され、特に感染症のリスクが顕在化する中で役に立ったと考えられる。

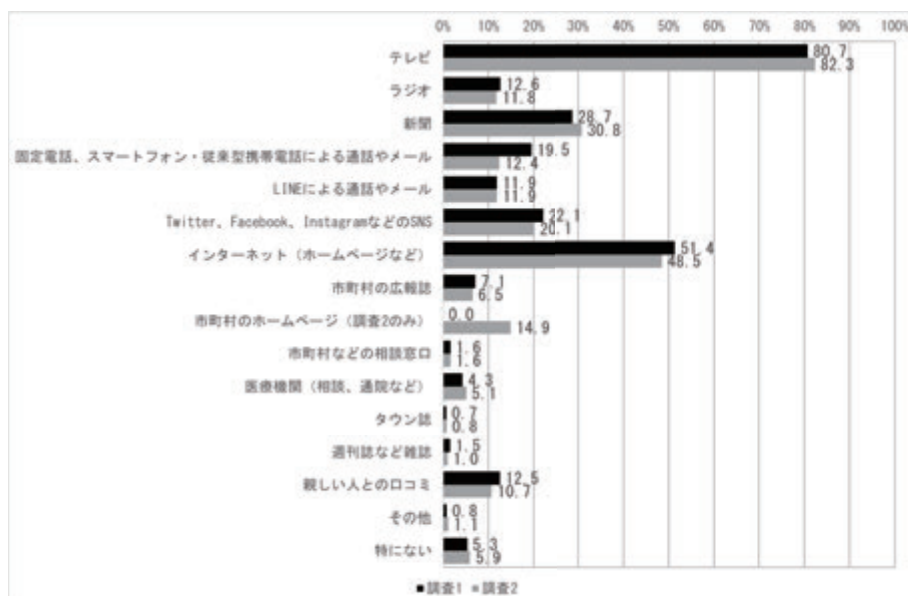


図 3.2.1 新型コロナウイルスに関して役に立った情報源（複数回答，N=4700）

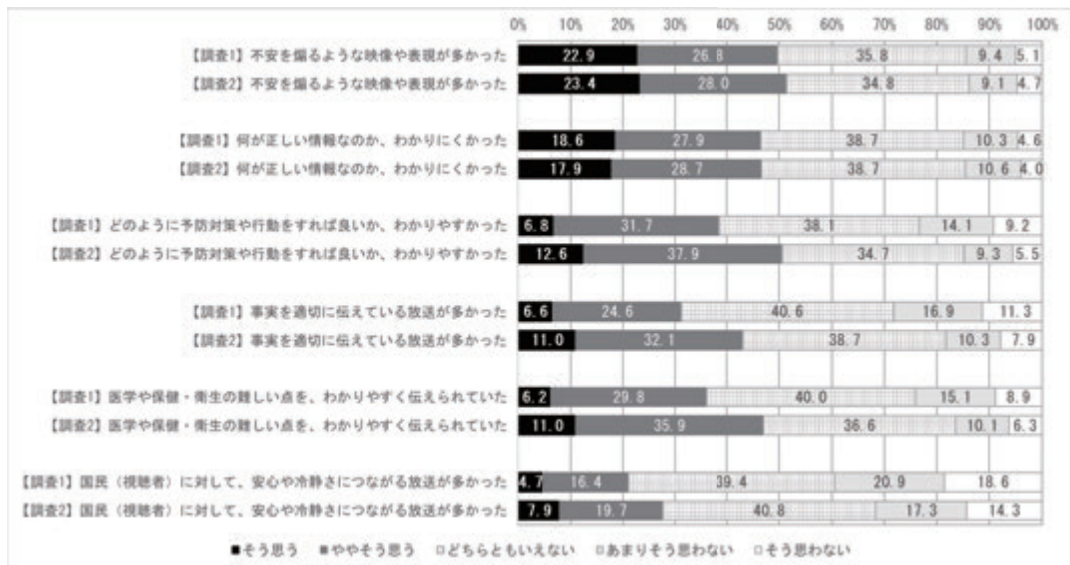


図 3.2.2 テレビ報道に対する評価 (N=4700)

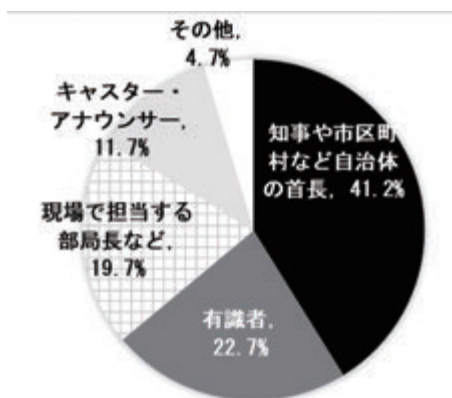


図 3.2.3 安心をもたらす情報発信者 (調査 1, N=4700)

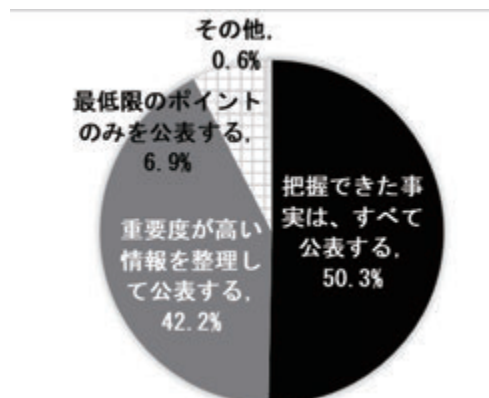


図 3.2.4 安心をもたらす情報発信方法 (調査 1, N=4700)

また、情報流通にはメディア形態のみならず、発信する人物の属性など多くの要素が関わってくる。図 3.2.3 および図 3.2.4 は、居住地域においてどのような情報発信者、および情報発信の方法が安心につながるか尋ねた結果である。情報発信者としては「知事や市区町村など自治体の首長」が 41.2% と最も大きな割合を占め、「有識者」(22.7%)、「現場で担当する部局長など」(19.7%)、「キャスター・アナウンサー」(11.7%) と続く。

情報発信方法としては、「把握できた事実は、すべて公表する」(50.3%) が最も高かったが、「重要度が高い情報を整理して公表する」も 42.2% と同程度に高い割合を占めていた。

このように、人々は地域行政の長、あるいは有識者と言った専門家に心理面で依拠しており、情報発信者には情報の透明性、および整理を期待していることが伺えた。

3.3 情報認知

次に、新型コロナウイルスに関する情報について人々がどの程度認知しているのかを理解する。図 3.3.1 は新型コロナウイルスに関する用語について人々の認知度を 4 段階（「聞いたことがあり、意味も理解している」「聞いたことがあり、意味はなんとなく分かる」「聞いたことはあるが、意味はわからない」「聞いたことがない」）にて尋ねたものである。

まず、項目ごとに比較すると、用語の意味をある程度理解している（「聞いたことがあり、意味も理解している」と「聞いたことがあり、意味はなんとなく分かる」の合計）割合が最も高いのは、「新型コロナウイルス」（調査 1： 98.3%， 調査 2： 98.6%）であり、以降「接触感染」（調査 1： 96.3%， 調査 2： 96.7%）、「飛沫感染」（調査 1： 95.0%， 調査 2： 96.3%）と続く。

一方、認知度に関して、多くの人々が十分に理解していなかったものとしては「エアロゾル感染」（調査 1： 55.0%， 調査 2： 59.4%）や「COVID-19」（調査 1： 56.5%， 調査 2： 67.8%）であった。例えば、「接触感染」「飛沫感染」は文字通りの意味を示すため、認知しただけで容易に理解が可能であろう。しかし、「エアロゾル感染」や「COVID-19」は本邦における日常生活では馴染みのない語句である。これらの用語が、新型コロナウイルスの正しい認知と防疫行動にとって必要不可欠であるかは難しいところだが、一般的に新しい情報を提示する場合、報道機関や専門家は人々にとってより分かりやすい表現を使うことも一考する必要があるだろう。

また、調査 1 と調査 2 を比較すると用語への理解がかなり進んでいる項目がある。例えば、「クラスター感染」や「PCR 検査」は 10% 程度理解を示す人の割合が増加している。先に挙げた「COVID-19」も、理解している人は 7 割弱程度ではあるが、調査 1 から 10% 理解を示す人が増えている。これは、新型コロナウイルスのリスクが顕在化するにつれて、人々の情報への欲求が高まった結果であると推測される。

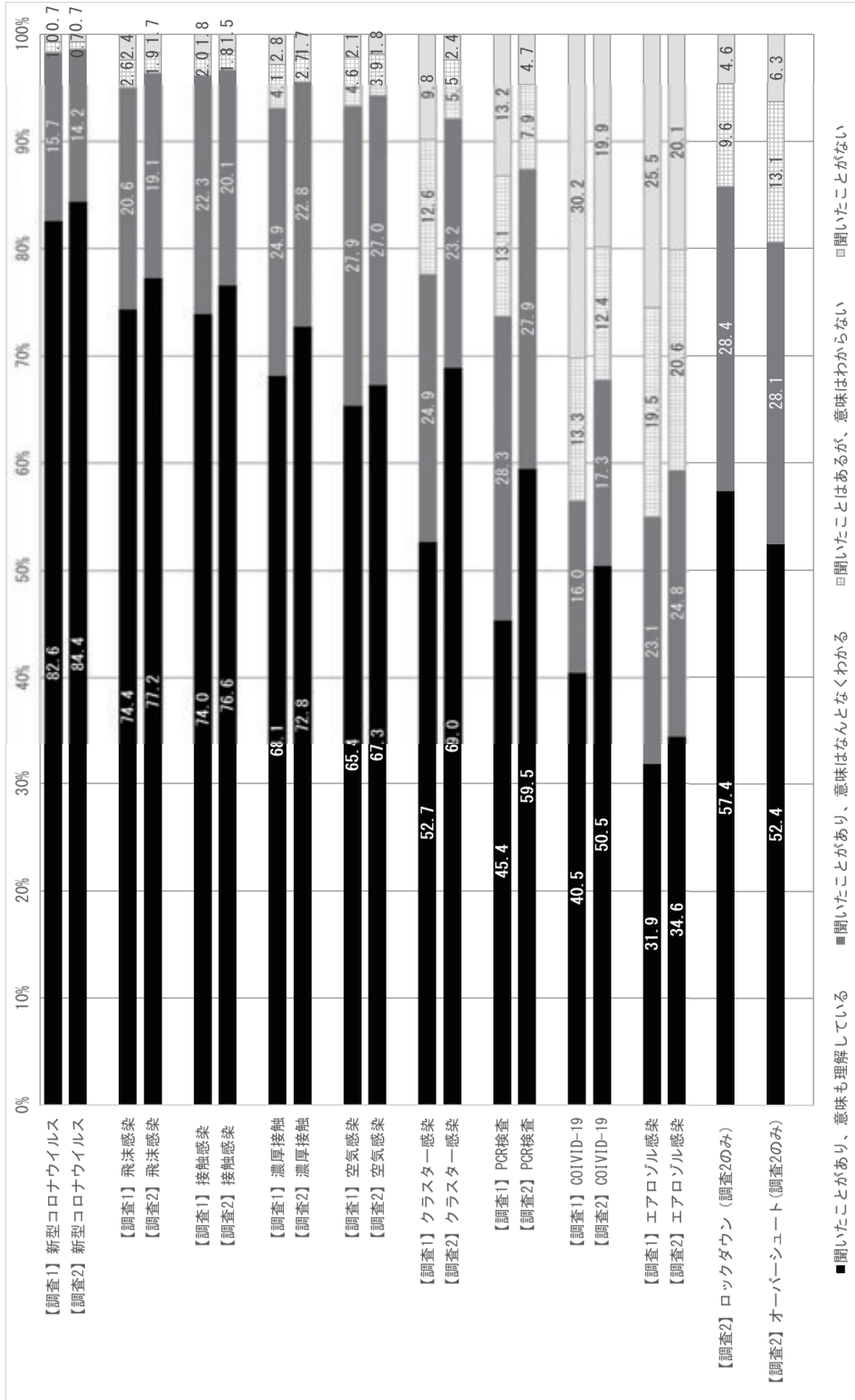


図 3.3.1 新型コロナウイルスに関する用語の認知 (N=4700, 石橋ら, 2020 を改訂)

4. うわさ

新型コロナウイルス感染症に伴う社会不安によって、不正確な情報や誤った情報を含めた大量の情報が急速に拡散し、人々の生活で氾濫している。これに対して、WHO（世界保健機関）が新型コロナウイルス感染症に関するフェイクニュースの拡散を「インフォデミック」と呼び、人々に注意を呼びかけていた。このような状況は、正確な情報が分かりにくくなる社会的混乱の状態をもたらしている。日本も例外ではなく、新型コロナウイルス感染拡大後の偽情報や誤った情報の問題が深刻化していた。例えば、本調査が行われた時点で、「マスク増産による原材料不足でトイレトペーパーが不足する」とのうわさも日本国内で広く拡散していた。以上を踏まえて、本章は主に、トイレトペーパー不足をはじめとするうわさとそれに関連した人々の行動について述べる。

4.1 「トイレトペーパーパニック」の周縁

(1) トイレトペーパー不足に関するうわさ

まずは、回答者に「マスク増産による原材料不足でトイレトペーパーが不足する」といううわさの最初の情報源を聞いた。その結果は図 4.1.1 である。全体では「テレビ」(43.8%)との回答が最も多く、次いで「人との会話・ロコミ」(17.6%)、「インターネット（ホームページなど）」(12.9%)が続く。「Twitter」は 10.1%だけであったが、SNS(Twitter、Facebook、Instagram、LINE)の中では最も比率が高かった。「トイレトペーパーが不足する」とのうわさは SNS を中心に拡散したと思われる傾向があるが⁷、以上の結果によって、SNS よりむしろ、テレビによって認識した人が多いと言える。

次に、最初に知った情報源以外の情報源についても問うた。全ての情報源を合わせて加算した結果（図 4.1.2）、「テレビ」は 66.7%となり、「トイレトペーパーが不足する」とのうわさの認知におけるテレビの影響力は非常に大きいことを示している。その中には、流言自体を伝えた報道のほか、流言を打ち消した報道も含まれていると考えられる。

⁷ 例えば、日本経済新聞、2020、「コロナで注意「インフォデミック」とは」、<https://www.nikkei.com/article/DGXMZ057688620V00C20A4I10000>、2021年1月26日アクセス

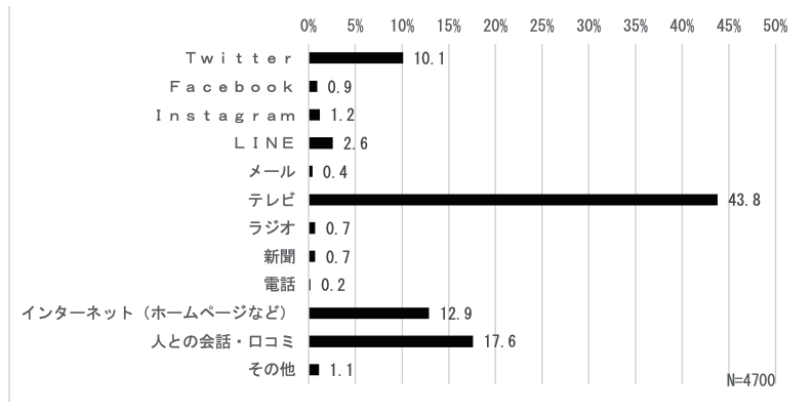


図 4.1.1 トイレtpーパーが不足するとのうわさを最初に知った情報源
(調査 1, N=4700, 聞いていない・わからない人の結果は省略)

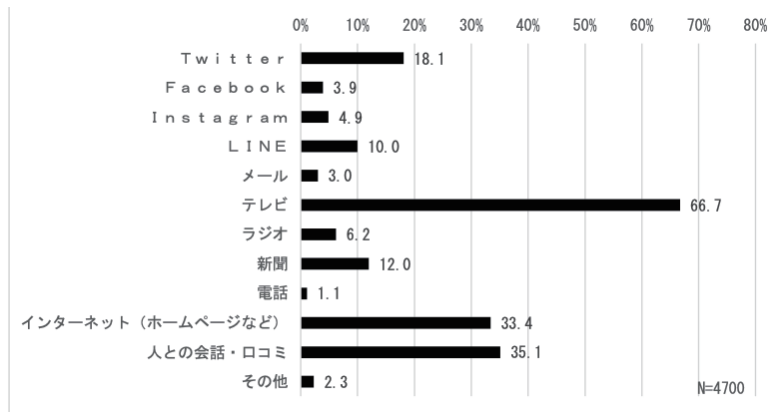


図 4.1.2 トイレtpーパーが不足するとのうわさを知った全ての情報源
(調査 1・複数回答, N=4700)

また、「トイレtpーパーが不足する」とのうわさを知った全ての情報源について、性別、年代別に分析した結果は表 4.1.1 である。カイ 2 乗検定と残差分析を行ったところ、性別では、「Instagram、LINE、人との会話・口コミ」は女性、「メール、ラジオ、新聞、インターネット (ホームページなど)」は男性の方の比率が有意に高かった。年代別では、多くの項目で有意差があり、Twitter、Instagram、LINE において、20 代の比率が高く、40 代、50 代、60 代の比率が低くなっている。一方、テレビ、ラジオ、新聞における比率は、20 代、30 代は 50 代、60 代よりも明らかに低くなっている。また、インターネット (ホームページなど) において、20 代の比率は 40 代、50 代よりも有意に低かった。うわさの情報源は年代別のメディア利用状況とほぼ一致していることを示している。

表 4.1.1 性別、年代別にみたトイレットペーパーが不足するとのうわさの情報源

	N	Twitter	Facebook	Instagram	LINE	メール	テレビ	ラジオ	新聞	電話	インターネット (ホームページなど)	人との会話・ロコミ	その他	聞いていない・分からない
男性	2350	17.4%	4.4%	3.5%	8.6%	3.9%	66.8%	8.6%	15.4%	1.2%	39.7%	27.7%	1.5%	9.2%
女性	2350	18.8%	3.4%	6.2%	11.4%	2.2%	66.5%	3.7%	8.6%	1.0%	27.1%	42.4%	3.0%	6.4%
		ns	ns	***	**	***	ns	***	***	ns	***	***	**	***
20代	940	43.8%	4.8%	12.7%	17.7%	3.8%	56.4%	3.7%	6.4%	1.7%	22.6%	32.8%	2.2%	8.3%
30代	940	20.4%	4.3%	7.1%	11.1%	2.0%	62.7%	4.3%	5.6%	0.9%	33.3%	36.6%	2.6%	7.3%
40代	940	13.7%	3.8%	2.3%	8.2%	3.0%	64.9%	5.7%	9.1%	0.4%	39.4%	37.9%	2.3%	7.8%
50代	940	8.2%	3.0%	0.9%	6.4%	3.1%	71.9%	9.3%	15.6%	1.1%	38.1%	36.6%	2.2%	7.2%
60代以上	940	4.3%	3.7%	1.3%	6.8%	3.3%	77.4%	7.9%	23.2%	1.4%	33.8%	31.6%	2.0%	8.3%
		***	ns	***	***	ns	***	***	***	ns	***	*	ns	ns
全体	4700	18.1%	3.9%	4.9%	10.0%	3.0%	66.7%	6.2%	12.0%	1.1%	33.4%	35.1%	2.3%	7.8%

※ アスタリスクは、各属性(性別、年代)×各回答[あてはまる / あてはまらない]のクロス集計の

χ²検定結果。ns: no significant、*:p<0.05、**:p<0.01、***:p<0.001

※ 表中の黒太字は残差分析の結果5%水準で有意に高い値、赤太字は有意に低い値を表す。

(2) トイレットペーパー品切れ情報

うわさが広まってから、店頭からトイレットペーパーが売り切れてしまう状態が一時期続いた。回答者に、「実際にトイレットペーパーなどの品切れが発生している状況を、最初に知った情報源は何ですか」とたずねた結果、図 4.1.3 に示した通り、一番多かったのは「テレビ」の 31.7%、次いで「店頭で見かけて知った」(30.2%)、「人との会話・ロコミ」(13.3%)の順であった。SNS の合計は 9.8%で、「テレビ」には遠く及ばなかった。次に、品切れの状況を最初に知った情報源以外のほかの情報源を加えた結果は図 4.1.4. である。「テレビ」(59.9%)との回答が圧倒的に多かったほか、「店頭で見かけて知った」(51.0%)という人も約半数を占めている。同様に、SNS による認知は高くない。

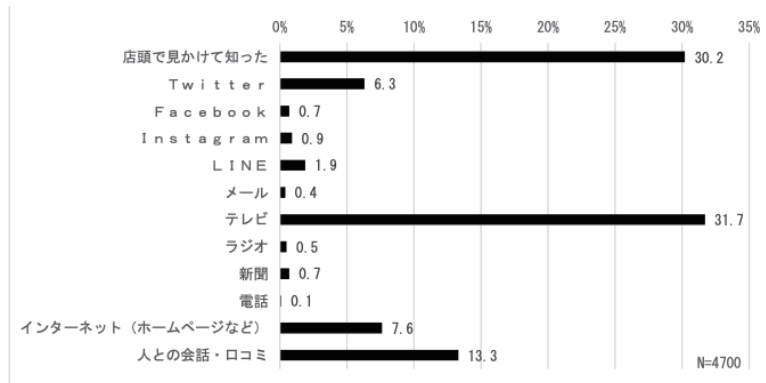


図 4.1.3 トイレットペーパーの品切れ情報を最初に知った情報源
(調査 1, N=4700, 聞いていない・分からない人の結果は省略)

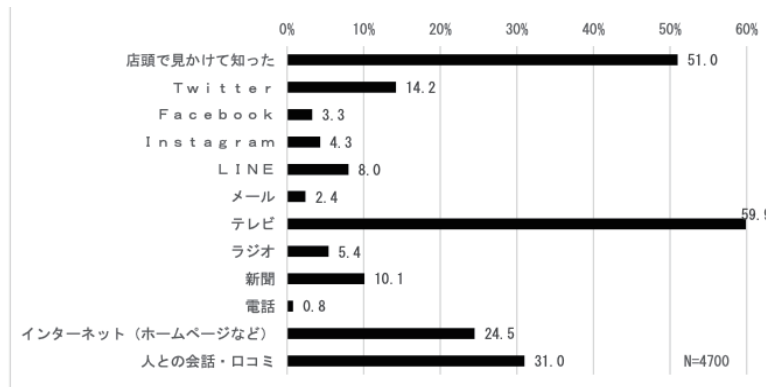


図 4.1.4 トイレットペーパーの品切れ情報を知った全ての情報源
(調査 1・複数回答)

また、実際にトイレットペーパーなどの品切れが発生している状況を知った全ての情報源について、性別・年代別に分析した結果は表 4.1.2 である。性別では、「店頭で見かけて知った、Instagram、LINE、人との会話・ロコミ」は女性、「Facebook、メール、ラジオ、新聞、インターネット (ホームページなど)」は男性の方の比率が有意に高かった。それ以外、「Twitter、テレビ、電話」は有意差が見られなかった。年代別では、うわさの情報源の結果とほぼ同じく、テレビ、新聞、電話においての比率は、20代、30代が50代、60代よりも有意に低くなっている。「店頭で見かけて知った」のは30代が有意に高く、50代と60代は有意に低い。「人との会話・ロコミ」も60代の比率が有意に低く、30代、40代の比率が有意に高い。

表 4.1.2 性別、年代別にみたトイレットペーパーの品切れ情報の情報源

	N	店頭で見かけて知った	Twitter	Facebook	Instagram	LINE	メール	テレビ	ラジオ	新聞	電話	インターネット(ホームページなど)	人との会話・口コミ	その他	聞いていない・分からない
男性	2350	41.7%	13.9%	3.9%	3.1%	7.0%	3.4%	59.2%	7.2%	13.3%	0.8%	31.4%	25.4%	0.3%	7.5%
女性	2350	60.3%	14.6%	2.6%	5.6%	9.0%	1.4%	60.6%	3.6%	6.9%	0.9%	17.7%	36.6%	1.2%	2.5%
		***	ns	*	***	*	***	ns	***	***	ns	***	***	**	***
20代	940	53.2%	35.6%	3.5%	11.6%	14.3%	3.3%	47.9%	3.0%	5.4%	0.7%	16.6%	28.5%	0.2%	6.6%
30代	940	56.0%	16.1%	3.5%	6.0%	8.4%	1.6%	54.4%	3.3%	4.5%	0.6%	22.7%	33.9%	0.3%	5.5%
40代	940	52.6%	10.6%	3.6%	2.2%	7.0%	2.2%	57.0%	5.5%	8.7%	0.9%	28.1%	34.1%	0.9%	4.6%
50代	940	46.9%	5.5%	2.6%	1.2%	5.6%	2.1%	65.1%	8.0%	12.8%	0.9%	27.9%	31.8%	1.3%	4.9%
60代以上	940	46.4%	3.3%	3.2%	0.7%	4.7%	2.9%	75.1%	7.1%	19.0%	1.1%	27.4%	26.5%	1.2%	3.4%
		***	***	ns	***	***	ns	***	***	***	ns	***	***	*	*
全体	4700	51.0%	14.2%	3.3%	4.3%	8.0%	2.4%	59.9%	5.4%	10.1%	0.8%	24.5%	31.0%	0.8%	5.0%

※ アスタリスクは、 χ^2 検定の結果； ns：no significant, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

※ 表中の黒太字は残差分析の結果 5%水準で有意に高い値、赤太字は有意に低い値を表す。

(3) トイレットペーパー品切れ状況を認知した後の行動・結果・相談

まず、「店頭でトイレットペーパーの品切れが発生していることを知って、あなたはどのような対応をしましたか」と問うた。その結果は図 4.1.5 である。「当面必要な分はあるので、無理に購入しようと考えなかった」人は全体の 55.3%に達し、最も多かった。「店を探し回った」人は 4.4%、「念のため購入しようとした」と「自宅に少ないので購入しようとした」人は合わせて 32.3%であり、品切れの状況に対する認知によって日常と違う購買行動に至った人は、全体から見ると決して多くないことが明らかとなった。

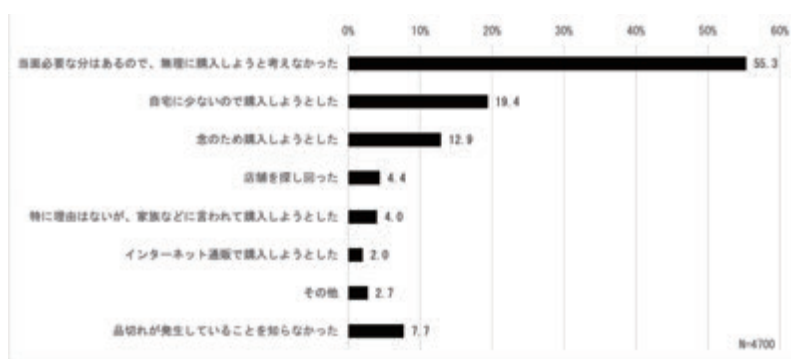


図 4.1.5 トイレットペーパーの品切れが発生していることへの対応 (調査 1, N=4700)

続いて、何らかの理由や方法で購入しようという行動にあたる回答をした人に、「実際に購入できたかどうか」とたずねたところ、希望どおりの購入ができた人 (36.8%) と、希

望どおりのものではなかったが購入できた人（27.9%）を合わせると、約6割が購入できたと回答している（図4.1.6）。購入意図のある人は、過半数がトイレットペーパーを購入できたが、28.9%の人が購入できなかったことは無視できない。トイレットペーパーのような普段供給面で決して不足しない商品でも、一部の人が集中的に多く購入する場合には、不足も発生することがわかった。

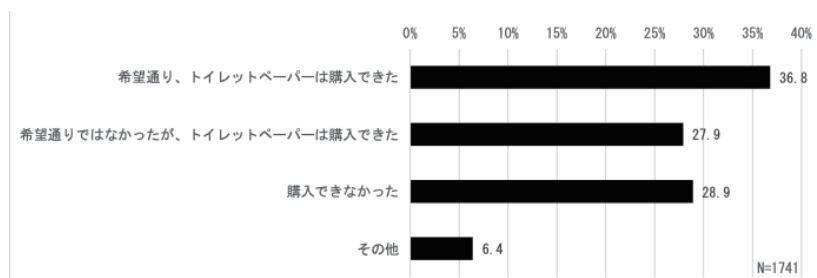


図 4.1.6 （購買意向のある人）購入できたかどうか（調査1，N=1741）

最後に、「店頭でトイレットペーパーなどの品切れや買い占めが発生していることを知った際に、ご家族など近親者との相談をしましたか」と問うた結果、全体の73.2%が「特に相談はしなかった」と答えた（図4.1.7）。

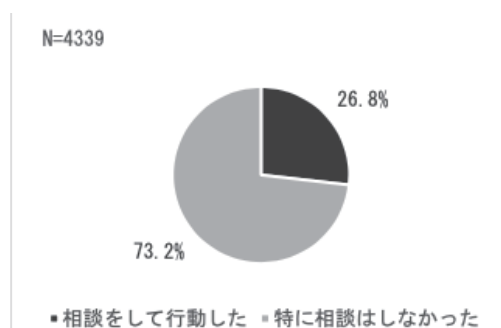


図 4.1.7 ご家族など近親者との相談をしましたか（調査1，N=4339）

以上の結果を踏まえてまとめると、品切れ状況に対する情報は、主にテレビや店頭から得るため、パニック購買への対応には、テレビの打ち消し報道やリアルタイムの状況放送、および店頭の即時的な対応が重要である。「人々は品切れ情報を手に入れたら買いためをする」と思われているが、実際には無理にトイレットペーパーを過剰購入しようとした人は少なく、品切れに関する情報共有や拡散も少なかった。買い溜めのような大きな集合行動は発生しなかったものの、一時的にトイレットペーパー不足が起こった。このことから、新型コロナウイルス感染症のような緊急事態にうまく対応するためには、予め商品の流通環境を整え、予防対策を講じることが重要であることがわかる。

4.2 うわさの流布状況

「マスク増産による原材料不足でトイレットペーパーが不足する」とのうわさ以外、新型コロナウイルスに関する代表的なうわさへの認知についても調べた。結果として、下記のそれぞれのうわさを「本当のことだと信じなかった」という比率が全体的に高かった(図4.2.1)。その中で、「新型コロナウイルスは熱に弱く、26～27度のお湯を飲むと殺菌効果がある」(50.6%)、「新型コロナウイルスは中国でつくられた生物兵器である」(52.6%)、「東京オリンピックが中止される」(65.5%)、「トイレットペーパーは中国でつくっているので不足する」(55.2%)とのうわさは過半数の回答者が「聞いたことがある」と回答した。ウイルスが未知であった感染拡大の初期には、科学的な知見が少なく、このような曖昧な状況のために予防もしくは治療についてのうわさが広まりやすかったと考えられる。

また、オリンピック開催延期が正式に発表されたのは3月24日であったが、大会の中止や延期のうわさは早くから広まり、認知度も高く、大会に対する国民の関心の高さと大きく関係していることが考えられる。さらに、「新型コロナウイルスは中国でつくられた生物兵器である」を「本当のことだと信じた」のは14.1%であり、全体から見れば高かった。これは中国もしくは中国政府へのイメージあるいは不信感につながる可能性があるだろう。

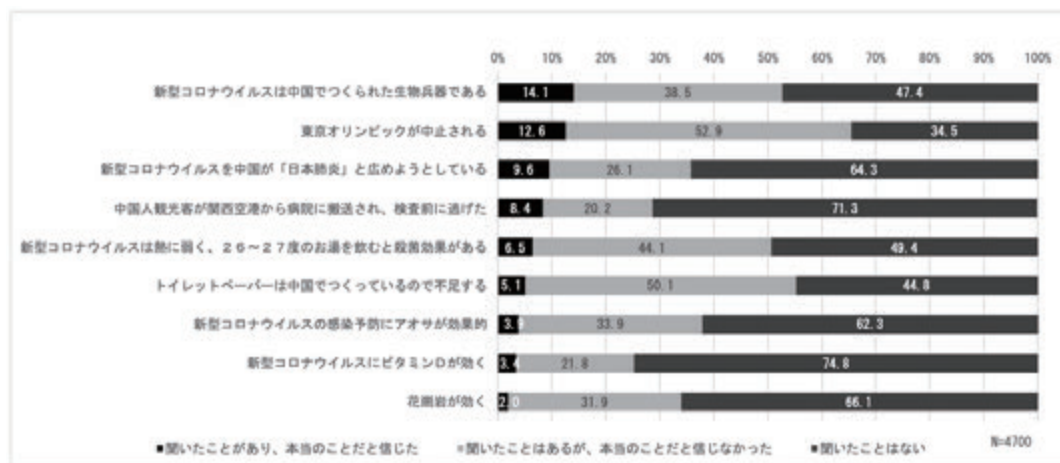


図 4.2.1 新型コロナウイルスに関するうわさへの認知 (調査1, N=4700)

4月に、日本での新型コロナウイルスのさらなる感染拡大に伴い、真偽が混在しているうわさも広がり続けていた。調査2では調査1と異なるうわさについて再度調査を実施した。その結果は図4.2.2である。

図中のうわさの認知度(聞いたことあり本当のことだと信じた、聞いたことはあるが本当のことだと信じなかった)は全体的に高かった。これは感染状況が深刻化すると共に、

コロナに関する情報への接触も増えたことを示しているのであろう。その中では、「若い人は新型コロナウイルスに感染しても死んだり重症化することはない」について認知したという回答が 82.2%と最も高く、それを「本当のことだと信じなかった」人も最も多かった（56.5%）。重症化する人の割合や死亡する人の割合は年齢によって異なり、高齢者は高く、若者は低い傾向にあるが（厚生労働省，2020e）、若年層の重症化や死亡の報告自体は存在するため、人々はそれを認識していると言える。また、「聞いたことがあり、本当だと信じた」人が多かった項目としては、「政府は新型コロナウイルスの死者数・感染者数を低く抑えるために、PCR 検査をしていない」（34.3%）、「政府は新型コロナウイルスの感染者数を正確に発表していない」（31.9%）に多く、認知者のうちの約半数が信じたと回答している。この結果には、政府の対策に対し、国民が不足を感じていることが反映されていると言えるだろう。

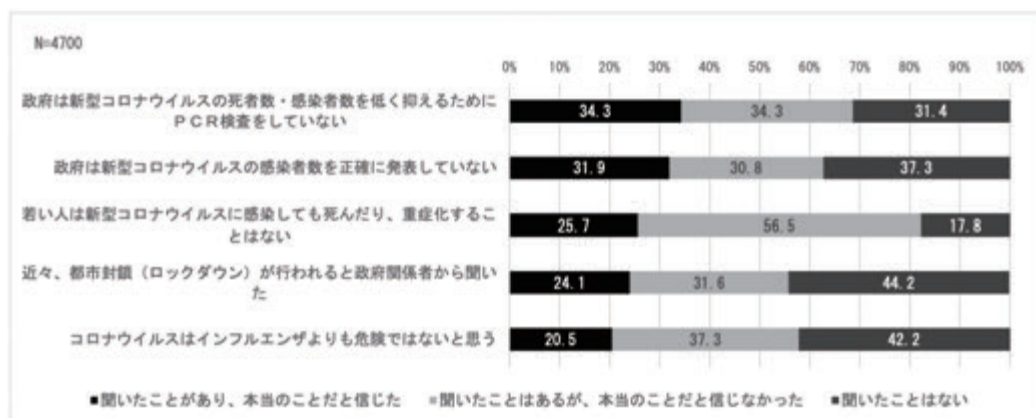


図 4.2.2 新型コロナウイルスに関するうわさへの認知（調査 2，N=4700）

5. 新型コロナウイルスの感染防止行動

5.1 感染防止の取組

本節では新型コロナウイルスの感染防止の取組について述べる。

まず、「あなたご自身が、感染防止のために、特に気をつけて行っていることは何ですか」とそれぞれの感染防止の取組について複数回答で問うた。この設問は調査1、調査2のいずれにおいても問うており、その結果が図5.1.1である。最も多かったのはいずれの調査でも「手洗いやアルコール消毒」という手からの感染パターンへの防止であり、次いで「咳エチケット・マスクの着用」という飛沫対策であった。特に後者は自分自身がかからないため、というだけではなく、他人にうつさないことも目的にしていると考えられる。また、全体としてみた場合に調査1と調査2を比較すると、ほとんどの項目で取り組みを行っている割合は変わらない。そうした中で、「屋内の換気」は他の項目と比較して行う人が増えており、これは厚生労働省の専門家会議で「新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言」として感染拡大のリスクを高める環境の一つに「換気の悪い密閉空間」があげられ（厚生労働省、2020f）、そうした場所を避けるように呼びかけられたことが影響していると考えられる。

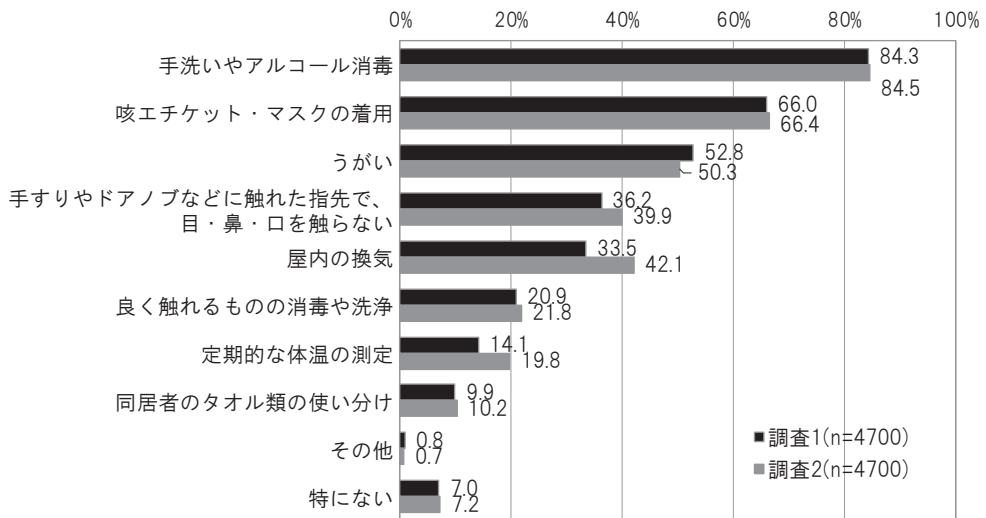


図 5.1.1 感染防止の取組状況（調査1，調査2いずれも N=4700）

次に、それ以外の感染防止の取組である。調査2の前には、先述の専門家会議からの提言を基に政府は「換気の悪い密閉空間、多数が集まる密集場所、間近で会話や発声をする密接場面」のいわゆる「3密」を避けるように呼びかけ（図5.1.2）、3月25日に小池百合

子東京都知事が週末（3/28～29）の外出自粛を強く要請するなど、行動の変容が求められた。そこで、さらに感染防止の取組状況について「上記（※調査票では問番号）で示した感染防止の行動の他に、感染症の拡大などを防ぐために、あなたが行っていることは何ですか」と複数回答で問うた。その結果が図 5.1.3 である。最も多かったのは「人が密集するような場所へ行くことを避ける」で 79.0%であった。「3密」を避けることが意識された結果と言える。また、直接的な感染防止の取組ではないが、「ニュースや解説などの情報は、自分が信頼できる情報源を選ぶ」が 39.0%、「うわさや伝聞にまどわされないようにする」が 42.6%と多くの人が情報面でも対策を意識していることがわかる。これは、3月の「トイレトーパーパニック」や新型コロナウイルスという未知の病気に対して、何が正しいか分からない、という状況を反映した結果と言える。

こうした様々な感染防止の取組について、人びとは続けられると考えているのか。調査時点ではどれほどの期間、事態が続くかは不明瞭ではあるが、人びとに「あなたは、前述で行っている行動や、大切だと考えていることについて、事態が収束するまでの期間、実行し続けることができますか」と意識を問うた（調査 2）。その結果が図 5.1.4 である。8割以上の方が感染防止の取組を続けられると答えた。

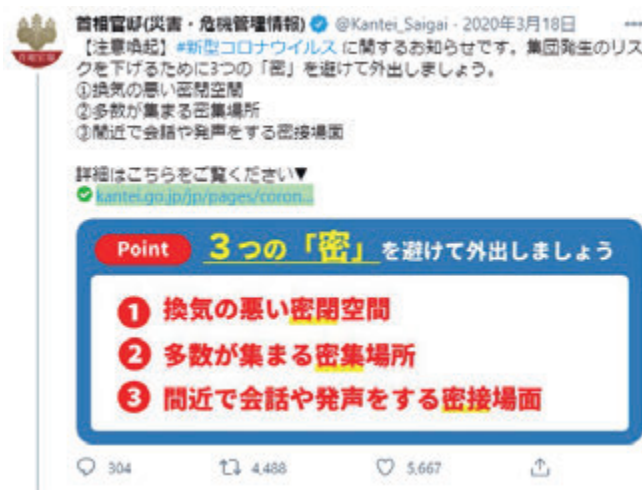


図 5.1.2 「3密」を呼びかけるツイート（出典：首相官邸（災害・危機管理情報）twitter）

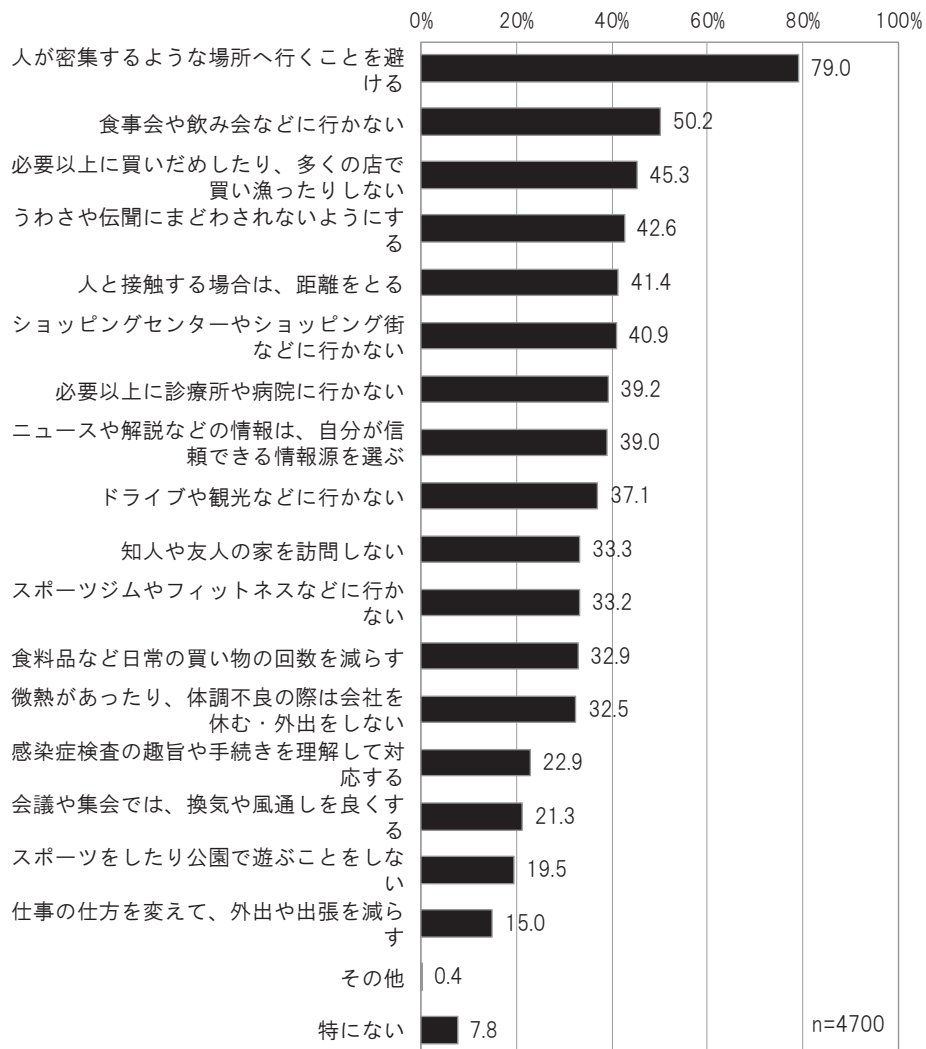


図 5.1.3 それ以外の感染防止の取組状況（調査 2, N=4700）

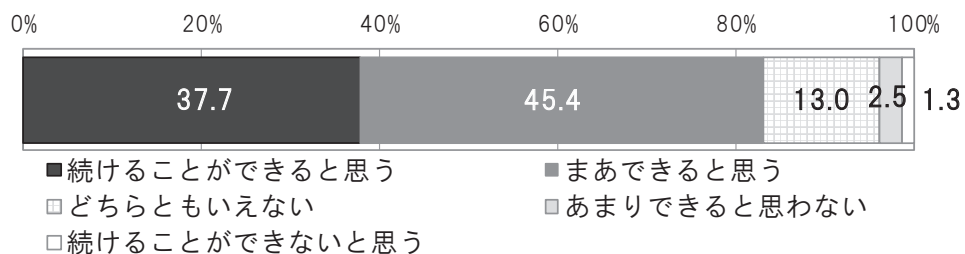


図 5.1.4 感染防止の取組を続けられるか（調査 2, N=4484）

さらに、マスクの着用理由も問うた。第1回の調査が行われた3月上旬の時点では、新型コロナウイルス対策としてマスクを購入したくとも品薄で出来ない、という状況であった。また、その後研究が進み、新型コロナウイルス対策としてマスクの着用が有効であることが明らかとなり (Ueki et al, 2020)、2021年1月時点では街中でマスクを着用していない人を見かけることはほとんどなくなったが、当時はマスクを着用していない人も散見された (図 5.1.5)。実際に図 5.1.1 の通り、感染防止の取組として全ての人がマスクを着用していたわけではない。



図 5.1.5 2020年2月時点の街の様子 (出典:朝日新聞, 2020年2月17日 夕刊 8頁)

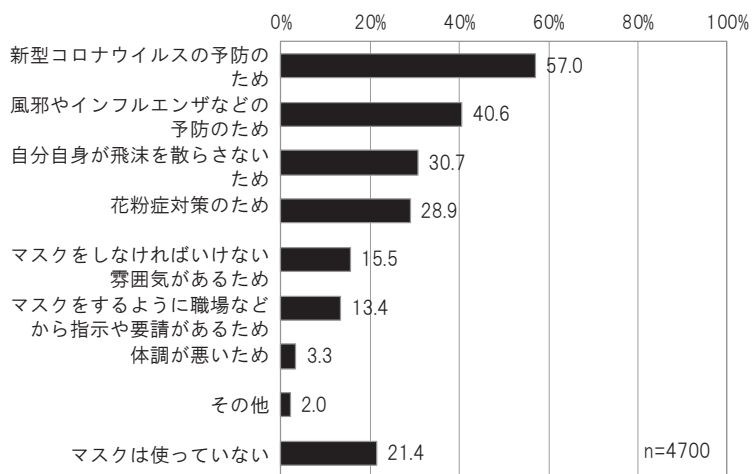


図 5.1.6 マスクの着用理由 (調査1, N=4700)

その結果が図 5.1.6 である。「新型コロナウイルスの予防のため」が 57.0%と最も多かったが、「風邪やインフルエンザなどの予防のため」が 40.6%や「花粉症対策のため」が

28.9%と、他の病気やアレルギー対策としてマスクを着用していた人も多い。また、「マスクをしなければいけない雰囲気があるため」が15.5%、「マスクをするように職場などから指示や要請があるため」が13.4%と社会的な要請からマスクをしていた人も、一定程度存在していた。

5.2 外出に関する自粛

本節では外出に関する自粛の状況について述べる。

まず、調査1で「新型コロナウイルス感染症を知ってから、あなたが利用や参加などを控えたものはありますか」と問うた結果が図5.2.1である。ここでは具体的な期間を定めるといふより、新型コロナウイルス感染症を知って以降の自粛の様子について問うた。その結果、家の外での飲食ならびに旅行やカラオケなどのレジャーに関して、予定のあった人の約半数の人が「実施や参加をやめた」と答えている。

調査2でも同様に「ここ1週間くらいの間、あなたが利用や参加などを控えたものはありますか」と問うた結果が図5.2.2である。調査1とは対象として問うた期間が異なるために単純な比較はできないが、「もともと予定がなかった」と答えた人の割合が上がっている。また、予定があった人の中でも「実施や参加・利用をやめた」割合が上がっている。中でも「コンサートやライブ、演劇、映画の鑑賞（84.2%）」「飲み会・宴会（78.1%）」「カラオケ（71.6%）」などの娯楽、「結婚式（72.6%）」や「お葬式（54.3%）」が1回目と比較して高くなった。3月25日に東京都知事が「週末の外出自粛を強く要請」したが、全国でみても、自粛をした人が多くなったといえよう。

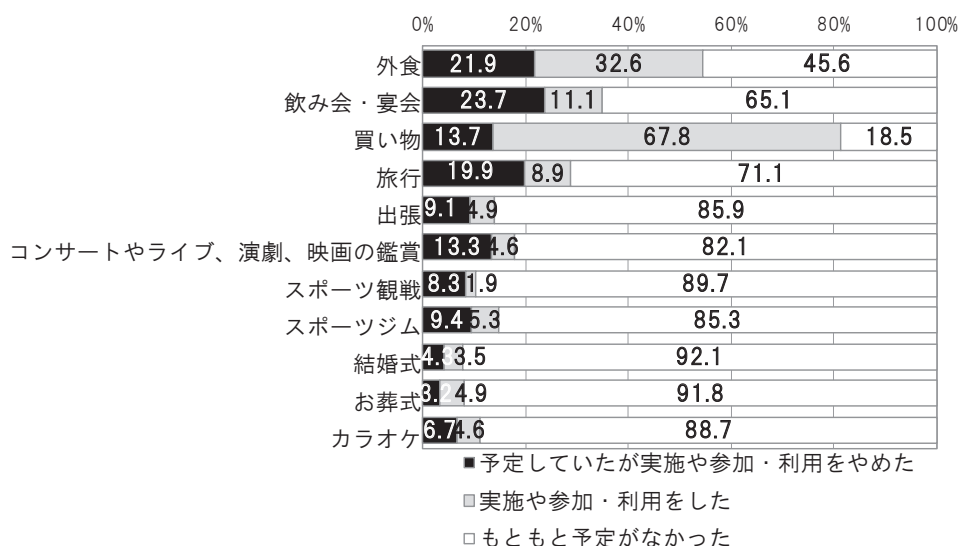


図 5.2.1 自粛の状況（調査1, N=4700）

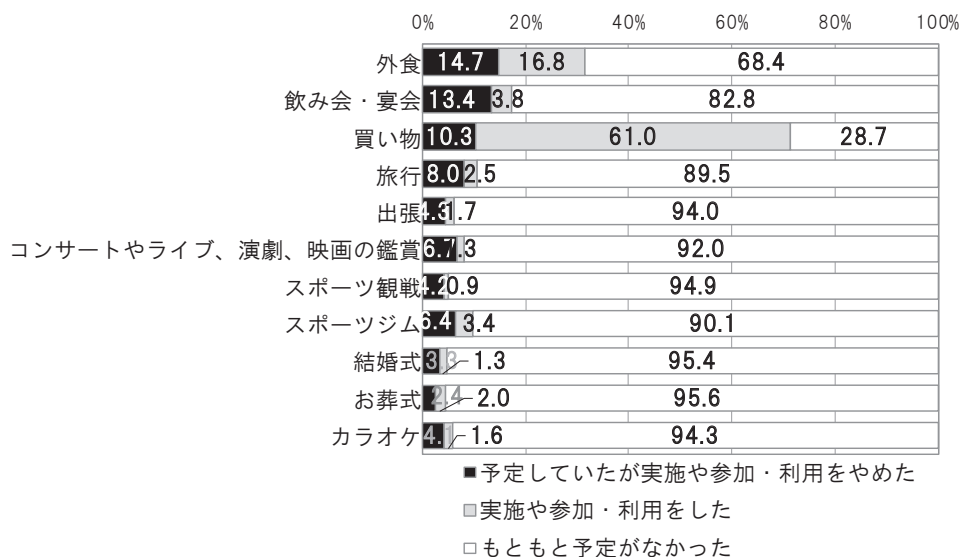


図 5.2.2 自粛の状況（調査 2, N=4700）

5.3 公共交通機関の利用状況

本節では公共交通機関の利用状況について述べる。前節で述べたように、多くの人が外出に際して自粛を経験した。さらに人々の新型コロナウイルスに対する意識の指標として、公共交通機関の利用状況を問うた。

調査 1、調査 2 のいずれでも聞いているのだが、ここでは調査 2 の結果についてのみ取り上げる。電車やバス、タクシーといった公共交通機関の利用状況について「ここ 1 週間くらいの間、あなたが利用を控えているものはありますか」と問うた結果が図 5.3.1 である。公共交通機関の利用を「避けている」と答えた人がどの項目でも 2 割程度存在している。また、出勤などで使う人が多い電車の移動などは「避けたいが、やむを得ず利用している」という人も一定程度存在している。

そこでさらに、移動手段として公共交通機関を利用している人が多いと考えられる大都市圏（東京都・愛知県・大阪府）に絞った結果が図 5.3.2 である。特に「混雑時の電車の移動」を「避けている」人は 31.0% である一方、「避けたいが、やむを得ず利用している」人も 21.3% 存在している。大都市圏では自家用車を持たない人も多いために、公共交通機関を使わなければ移動できないことが多く、新型コロナウイルス感染症対策の上で、葛藤を抱きながら利用していることがわかる。当然、こうしたことは大都市圏以外に居住する自家用車を出勤時や移動時に利用できない人にもあてはまるであろう。

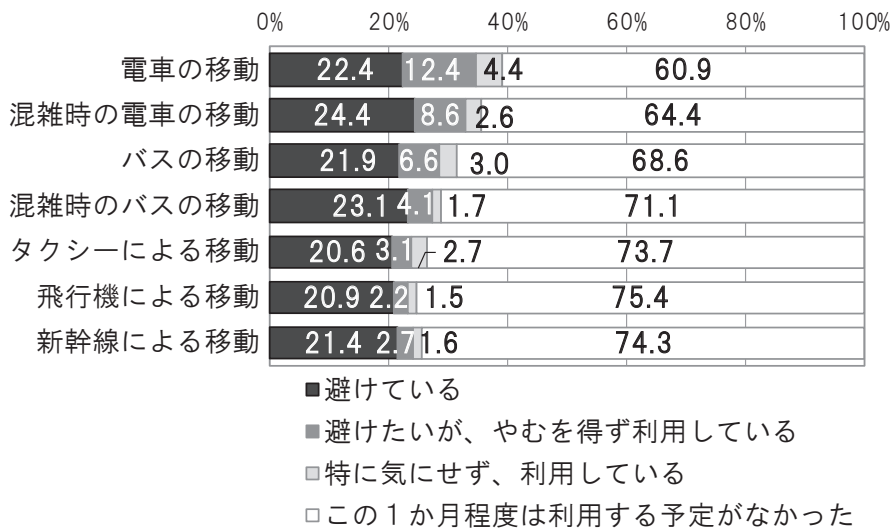


図 5.3.1 公共交通機関の利用への意識（調査 2, N=4700）

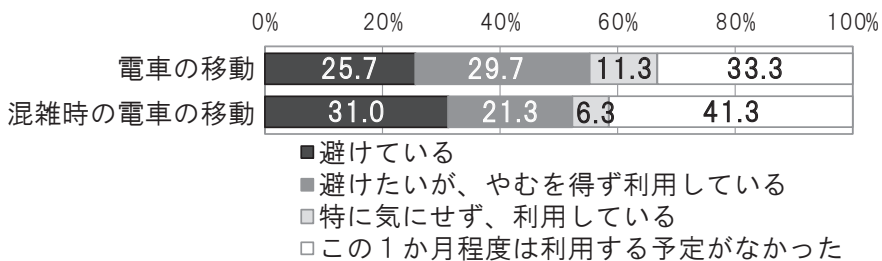


図 5.3.2 公共交通機関の利用への意識（調査 2、東京・愛知・大阪のみ, N=300）

5.4 テレワークの状況

本節ではコロナウイルス感染症対策を機に多くの企業が導入したテレワーク（在宅ワーク）について述べる。

まず、テレワーク（在宅ワーク）の利用状況が図 5.4.1 である。なお、ここでは調査 2 において、現在の職業が会社員（正社員・契約社員）、公務員、会社役員・経営者、パート・アルバイトと答えた人（n=3075）を対象としている。テレワーク（在宅ワーク）を「利用している」と答えた人は 9.4%である。79.0%の人が「職場では行われていない」と答えている。サービス業などの職種によってはテレワーク（在宅ワーク）が難しいが、それをふまえてもテレワーク（在宅ワーク）がそこまで普及していないことが明らかである。

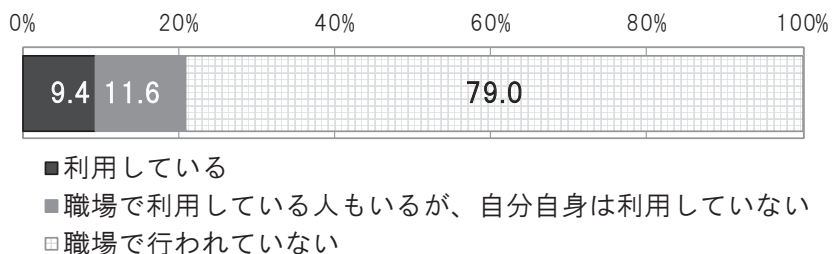


図 5.4.1 テレワーク（在宅ワーク）の利用状況（調査 2, N=3075）

次に、このテレワーク（在宅ワーク）を「利用している」と答えた人（n=288）にその評価を「テレワーク（在宅ワーク）による仕事の仕方をどう感じますか」と問うた。その結果が図 5.4.2 である。「良好である」割合が高く、テレワーク（在宅ワーク）に対する評価は高いといえる。

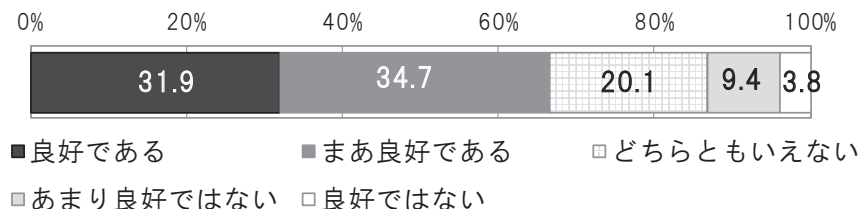


図 5.4.2 テレワーク（在宅ワーク）の評価（調査 2, N=288）

そこで、評価が「良好である」「まあ良好である」と答えた人（n=192）に対して、「テレワーク（在宅ワーク）による仕事で、良いと感じることはどのようなことですか」とテレワーク（在宅ワーク）のメリットを問うた。その結果が図 5.4.3 である。「外出による感染の心配を避けることができること」が最も高く 78.1%であった。自分自身の感染のリスクを低減させることができる、という点で評価している人が最も多かった。また、「移動や通勤にあてていた時間が有効に使える」も 59.4%と半数以上の人が答えており、時間の有効活用が可能になったと評価されている。一方で「集中して仕事ができること」は 30.2%と、それ以外の項目と比べて少し低くなっている。テレワーク（在宅ワーク）では同居している家族の声などを気にせざるを得ず、そうした点から集中力が低くなる人もいると考えられる。

次に、評価で「良好ではない」「あまり良好ではない」と答えた人（n=38）に対して、「テレワーク（在宅ワーク）による仕事で、不都合や課題を感じることはどのようなことですか」とデメリットを問うた。その結果が図 5.4.4 である。最も多かったのは仕事環境に関する「職場と比べて机や椅子など仕事がしやすい状態ではないこと」で 52.6%、また、「生

活と仕事のけじめがつきにくくなること」も 50.0%と多く、テレワーク（在宅ワーク）にどのように各自が適応していくのかという課題もみられた。

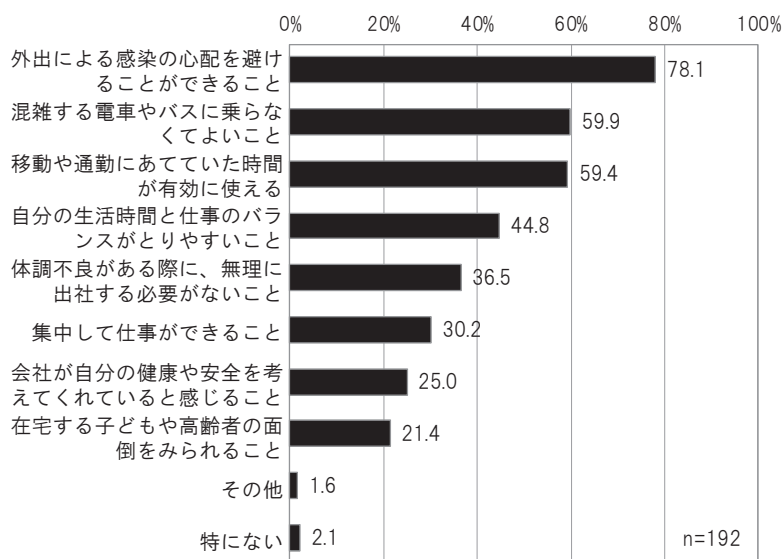


図 5. 4. 3 テレワーク（在宅ワーク）のメリット（調査 2, N=192）

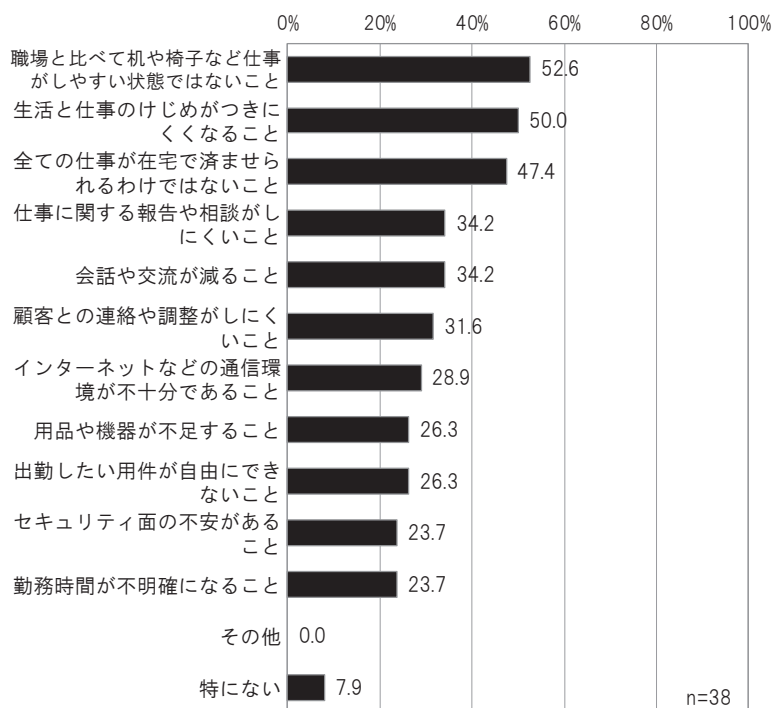


図 5. 4. 4 テレワーク（在宅ワーク）のデメリット（調査 2, N=38）

6. 購買行動の変化

2020年、コロナ禍において、購買行動には大きな変化があった。2月から世界的にいわゆる「トイレットペーパーパニック」といわれるトイレットペーパーの品切れが発生した。マスク、アルコール消毒液、除菌・抗菌用品（スプレー、シートなど）、トイレットペーパー、ティッシュなどコロナ対策としての衛生用品がモノ不足として大きな問題となった。

なお、インターネット上では最も話題になり続けたのはマスクであり、それらと比べると他の商品は総体的に話題とはなっていないことがわかる。トイレットペーパーもマスメディアでは2月末から3月初めにかけてとりあげられたが、ほんの一時期であったこと、そのほかの商品も話題になったのは2月から5月までのほんの一時期であることがわかる（図6.1）。

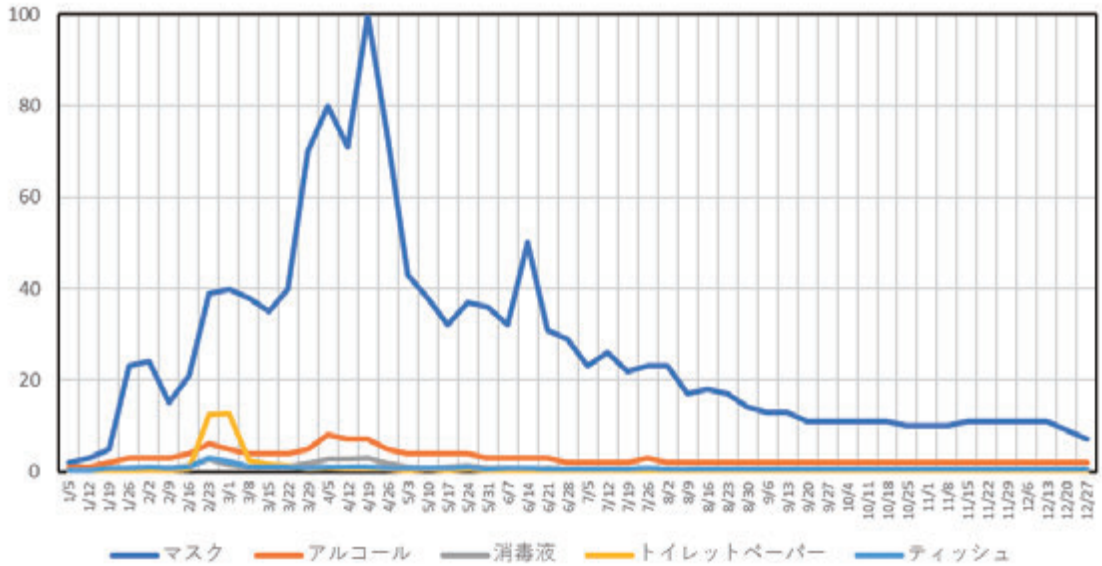


図 6.1 Google トレンドの相対値「マスク」「アルコール」「消毒液」「トイレットペーパー」「ティッシュ」

またこれらに関する消費行動の詳細をみても、多くの人が買いたくても買えていないものは、マスク、アルコール消毒液、除菌・抗菌用品（スプレー、シートなど）であった。トイレットペーパーは一時期話題になってはいたものの、買いたくても買えていないという人はそこまで多くはないことがわかる。

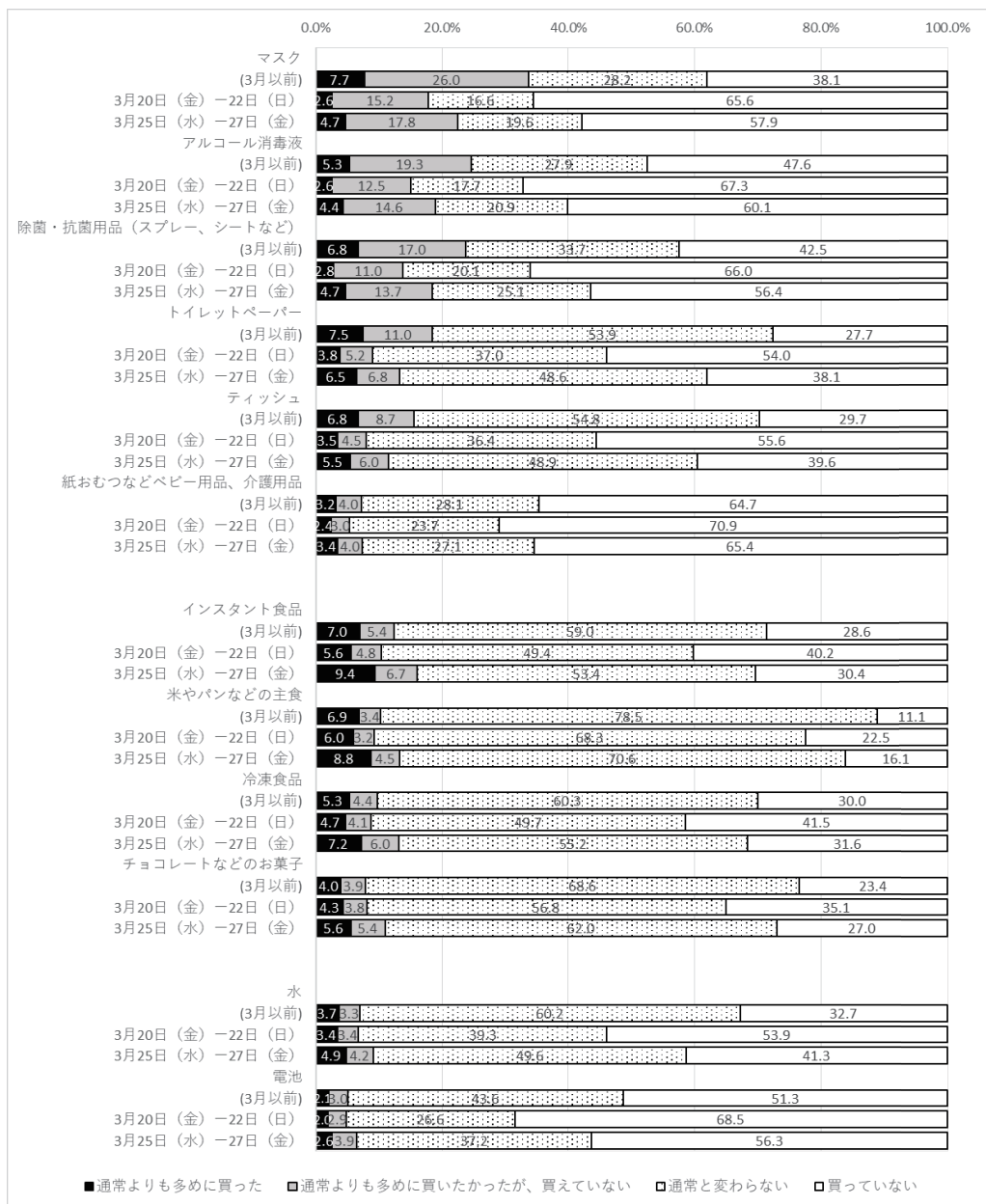


図 6.2 3 月以前 (調査 1)、20 日— 22 日、25 日-27 日 (調査 2) 時点の購買行動

7. 自粛要請・ロックダウンについての意識

まず、「あなたは、現在の『自粛要請』についてどう思いますか」と問うたところ、「感染症予防のためにやむを得ない」「医療崩壊を防ぐためにやむを得ない」という意見が多数であった。また「東京都など大都市において、都市封鎖（ロックダウン）の可能性があるとされるようになりました。これについて、どう思いますか」という質問に対しても、ほぼ同様の意見であった（図 7.1、図 7.2）。2020 年 3 月、4 月の段階では、概ね、自粛要請、ロックダウンについてはやむを得ないものととらえられていたことがわかる。

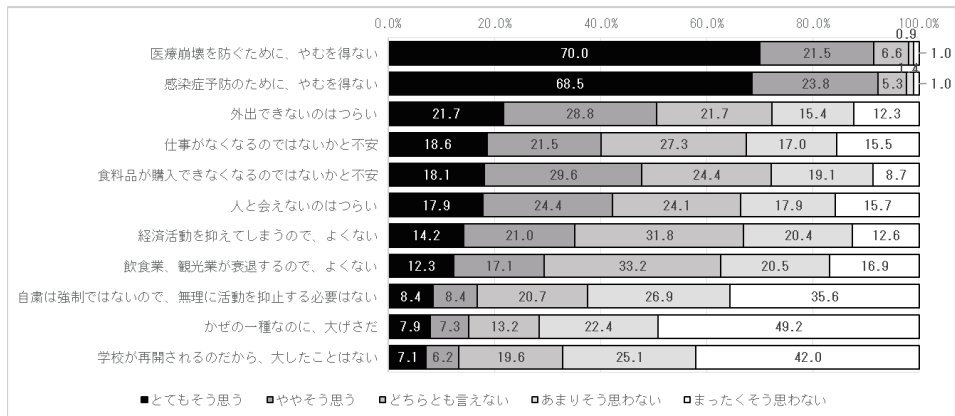


図 7.1 「自粛要請」についてどう思うか（調査 2, N=4700）

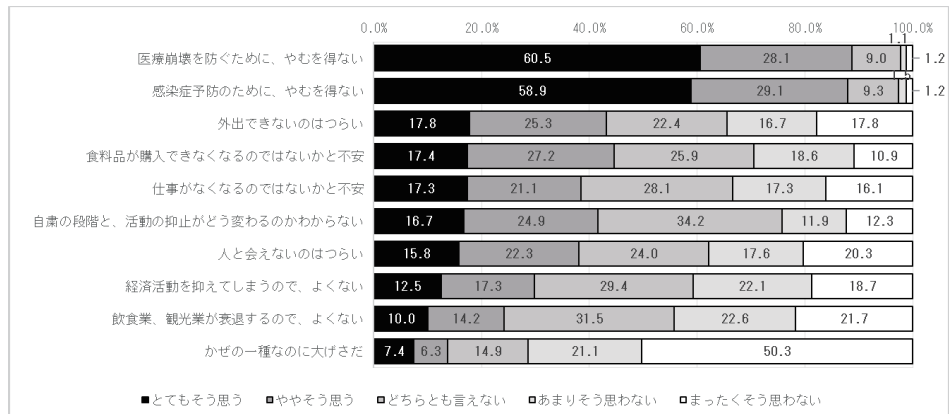


図 7.2 「都市封鎖（ロックダウン）の可能性」についてどう思うか（調査 2, N=4700）

だが、詳細にみていくと、属性によって、意見の傾向に違いがあることもわかった。これらの意見を因子分析（最尤法、プロマックス回転）したところ、「感染症対策への否定的意見」「外出・接触への不満」「行動制限への理解」「仕事・生活支障への不安」の 4 つの因

子に分かれたが（表 7.1）、「行動制限への理解」は、女性ほど、高齢ほど、基礎疾患のある人、乳幼児や小学生などを同居家族に持つ人、基礎疾患を持つ人が同居家族にいる人ほど、同意していた（「行動制限への理解」についての因子得点が相対的に高かった）。

逆に、若いほど、基礎疾患がない人、乳幼児や小学生などを同居家族に持つ人、基礎疾患を持つ人が同居家族にいない人は、「感染症対策への否定的意見」「外出・接触への不満」「仕事・生活支障への不安」を持つ傾向があった（「行動制限への理解」についての因子得点が相対的に高かった）（表 7.2、図 7.1、図 7.3）。

表 7.1 自粛要請・ロックダウンについての意識に関する因子分析

	因子1 対策否定	因子2 外出・接触	因子3 感染症予防	因子4 仕事・生活支障
感染症対策への否定的意見				
自粛について思うこと・かぜの一種なのに、大げさだ	0.901	-0.077	-0.015	-0.071
ロックダウンについて思うこと・かぜの一種なのに大げさだ	0.880	-0.056	-0.075	-0.049
自粛について思うこと・学校が再開されるのだから、大したことはない	0.851	-0.026	-0.030	-0.058
自粛について思うこと・自粛は強制ではないので、無理に活動を抑止する必要はない	0.800	0.045	-0.059	-0.058
ロックダウンについて思うこと・飲食業、観光業が衰退するので、よくない	0.674	0.063	-0.008	0.106
自粛について思うこと・飲食業、観光業が衰退するので、よくない	0.672	0.034	0.050	0.089
ロックダウンについて思うこと・経済活動を抑えてしまうので、よくない	0.669	0.014	0.032	0.063
自粛について思うこと・経済活動を抑えてしまうので、よくない	0.628	0.031	0.086	0.059
ロックダウンについて思うこと・自粛の段階と、活動の抑止がどう変わるのかわからない	0.295	0.265	0.065	0.116
外出・接触への不満				
ロックダウンについて思うこと・人と会えないのはつらい	0.010	0.936	-0.025	-0.024
ロックダウンについて思うこと・外出できないのはつらい	-0.008	0.916	-0.037	0.010
自粛について思うこと・人と会えないのはつらい	-0.005	0.886	0.007	-0.026
自粛について思うこと・外出できないのはつらい	-0.016	0.848	0.006	0.009
行動制限への理解				
ロックダウンについて思うこと・医療崩壊を防ぐために、やむを得ない	0.053	-0.014	0.944	-0.032
ロックダウンについて思うこと・感染症予防のために、やむを得ない	0.017	-0.013	0.925	-0.006
自粛について思うこと・医療崩壊を防ぐために、やむを得ない	-0.026	-0.011	0.771	-0.001
自粛について思うこと・感染症予防のために、やむを得ない	-0.066	0.006	0.770	0.020
仕事・生活支障に対する不安				
ロックダウンについて思うこと・仕事がなくなるのではないかと不安	-0.039	-0.013	-0.067	0.930
自粛について思うこと・仕事がなくなるのではないかと不安	-0.007	-0.107	-0.043	0.922
ロックダウンについて思うこと・食料品が購入できなくなるのではないかと不安	0.063	0.158	0.056	0.528
自粛について思うこと・食料品が購入できなくなるのではないかと不安	0.061	0.086	0.094	0.524
固有値	7.879	3.835	1.819	1.460
累積固有値 (%)	37.5	55.8	64.4	71.4

因子抽出法: 最尤法 回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

表 7.2 自肅要請・ロックダウンについての意識に関する因子得点
(性別、年齢別、基礎疾患の有無別、同居者の属性別)

		対策否定 (F値)	外出・接触 (F値)	感染症予防 (F値)	仕事・生活支障 (F値)
性別					
	男性	0.1395	99.881 ***	-0.0335	5.586 *
	女性	-0.1395		0.0335	
年代					
	20代	0.2181	21.098 ***	0.2820	8.785 ***
	30代	-0.0080		0.1091	24.295 ***
	40代	0.0042		-0.0318	
	50代	-0.0295		-0.1276	
	60代以上	-0.1845		-0.2314	
基礎疾患 (本人)					
	あてはまらない	0.0105	5.257 *	0.0162	12.339 ***
	あてはまる	-0.0996		-0.1535	8.641 **
同居：乳幼児					
	あてはまらない	-0.0053	3.4860	-0.0391	33.081 ***
	あてはまる	-0.0795		0.1907	9.780 **
同居：小学生					
	あてはまらない	-0.0198	0.036	-0.0182	13.382 ***
	あてはまる	-0.0108		0.1565	1.543
同居：中学生					
	あてはまらない	-0.0205	0.688	0.0013	0.800
	あてはまる	0.0033		0.0165	0.347
同居：高校生					
	あてはまらない	-0.0232	1.150	0.0006	0.194
	あてはまる	0.0415		0.0274	0.020
同居：高齢者 (65歳以上)					
	あてはまらない	-0.0008	3.320	0.0450	18.400 ***
	あてはまる	-0.0619		-0.1000	0.136
同居：基礎疾患					
	あてはまらない	-0.0032	12.643 ***	0.0190	14.108 ***
	あてはまる	-0.2083		-0.1996	10.137 ***

F検定 * p<.05, ** p<.01, *** p<.001

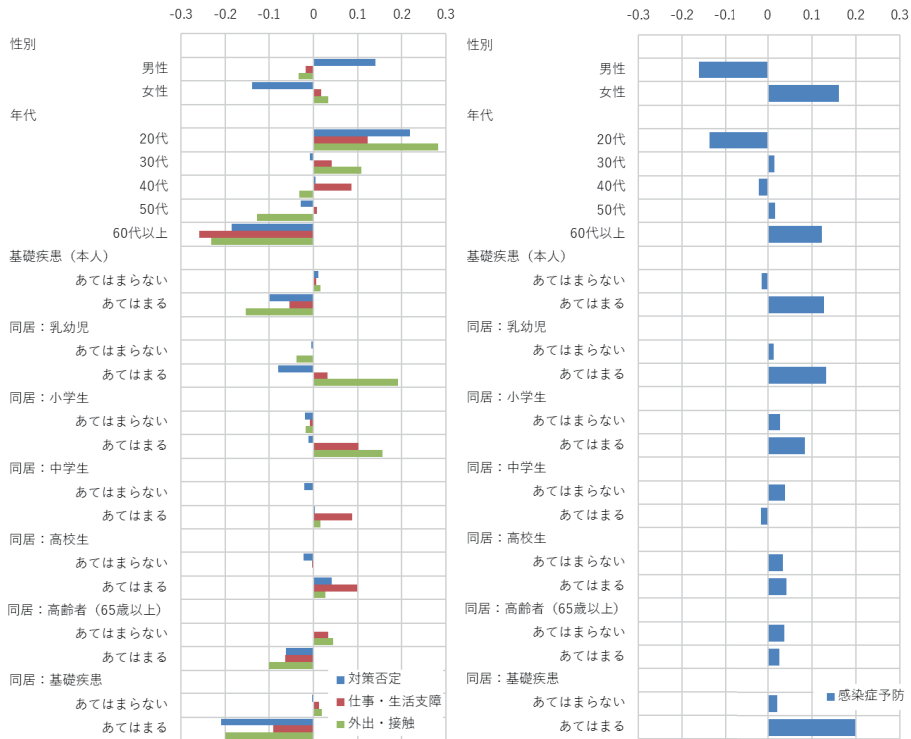


図 7.3 自肅要請・ロックダウンについての意識に関する因子得点
(性別、年齢別、基礎疾患の有無別、同居者の属性別)

また、「あなたが暮らす地域で『3週間（21日間）程度の間、人の外出や移動を制限する措置などが行なわれた場合』、自分自身に影響が大きいと思うのはどのようなことですか」と聞いたところ、「経済全体が大きな打撃を受ける」（59.3%）、「食料をはじめ生活必需品が不足する」（55.7%）と、経済、生活支障についての問題が多く挙げられた（図7.4）。

「3月25日、東京都知事が『感染爆発の重大局面』とし、週末の不要不急の外出等を控えることを要請しました。これを見聞きして、どう行動しようと思いましたか」と自粛要請について問うたところ、「社会の深刻な状況を感じて、外出を控えたいと思った」（60.8%）、「自分自身への危険の高まりを感じて、外出を控えたいと思った」（50.5%）と、実際に不安に感じて、外出を控えていることが分かった（図7.5）

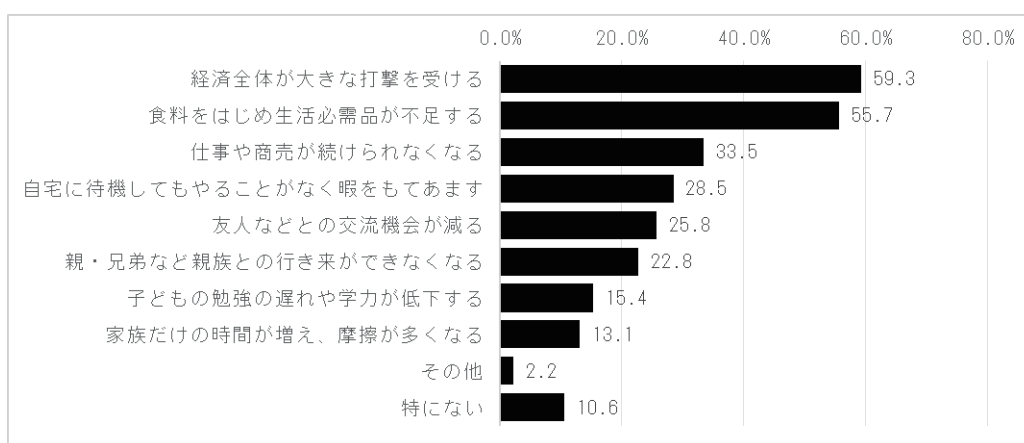


図 7.4 あなたが暮らす地域で3週間（21日間）程度の間、人の外出や移動を制限できる措置などが行われた場合、自分自身に影響が大きいと思うのはどのようなことですか(複数回答・N=4700)

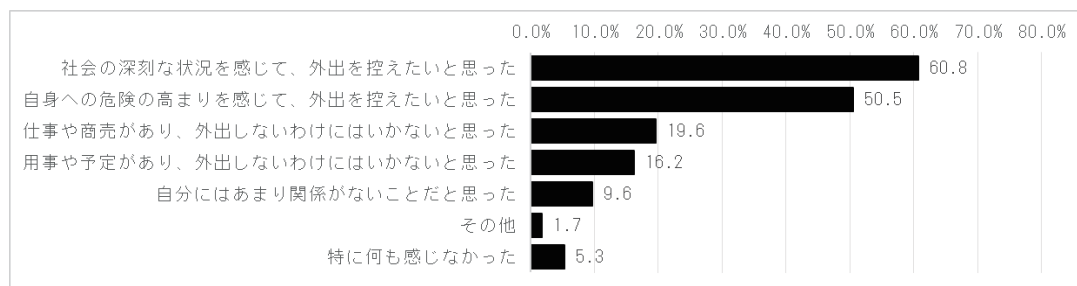


図 7.5 3月25日、東京都知事が「感染爆発の重大局面」とし、週末の不要不急の外出等を控えることを要請しました。これを見聞きして、どう行動しようと思いましたか(複数回答・N=4700)

調査2実施の1週間前、外出自粛の要請がでた3月28日(土)と29日(日)に、「あなたは主にどのように過ごしましたか」と聞いたところ、約半数が、「普段の土日よりも家にいることが多かった」と答えた(図7.6)。

その「普段の土日よりも家にいることが多かった」2231人に理由を問うたところ、上位から「感染するのではと人混みが怖かったから」(72.6%)、「外出自粛要請があったから」(58.0%)と、感染への懸念や外出自粛要請をまじめに受け止めての結果であることが分かった(図7.7)。

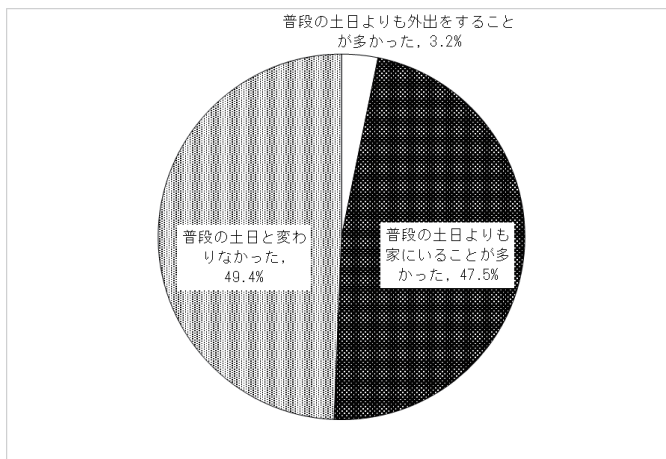


図 7.6 3月28日(土)と29日(日)に、あなたは主にどのように過ごしましたか(N=4700)

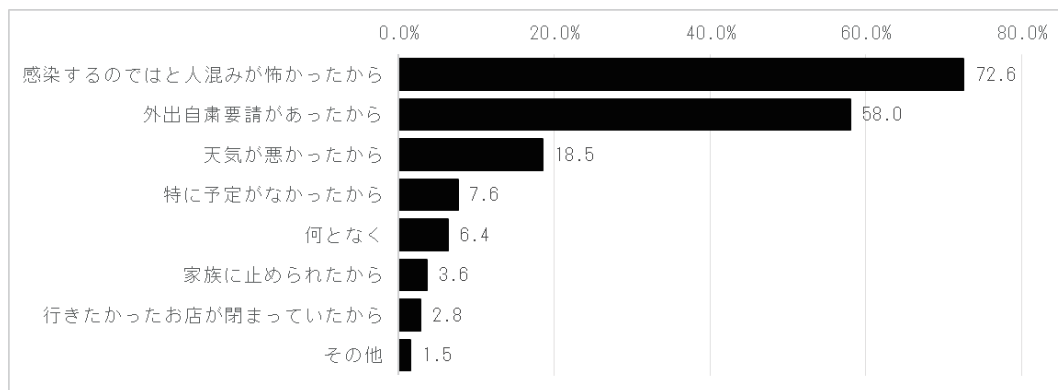


図 7.7 普段の土日よりも家にいることが多かった理由は何ですか
(複数回答・「普段の土日よりも家にいることが多かった」人、N=2231)

引用・参考文献

橋元良明・大野志郎・天野美穂子・堀川裕介・篠田詩織（2020）『緊急事態宣言で人々の行動・意識は変わったか？ [電子書籍版]』丸善出版.

Hiroshi Ueki, Yuri Furusawa, Kiyoko Iwatsuki-Horimoto, Masaki Imai, Hiroki Kabata, Hidekazu Nishimura, and Yoshihiro Kawaoka (2020) Effectiveness of face masks in preventing airborne transmission of SARSCoV-2, *mSphere*, 5(5), e00637-20

石橋真帆・安本真也・岩崎雅宏・石川俊之・藁谷峻太郎・関谷直也（2020）「新型コロナウイルス感染症への不安と情報行動の関連性」『災害情報』No. 19, (印刷中) .

厚生労働省（2020a）「新型コロナウイルス感染症の現在の状況と厚生労働省の対応について（令和2年3月5日版）」https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_09993.html（アクセス日：2021年1月28日）

厚生労働省（2020b）「新型コロナウイルス感染症の現在の状況と厚生労働省の対応について（令和2年4月2日版）」https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_10668.html（アクセス日：2021年1月28日）

厚生労働省（2020c）「新型コロナウイルスに関連した患者等の発生について（1月27日各自治体公表資料集計分）」https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_16398.html（アクセス日：2021年1月28日）

厚生労働省（2020d）「イベントの開催に関する国民の皆様へのメッセージ」https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/newpage_00002.html（アクセス日：2021年1月28日）

厚生労働省（2020e）「新型コロナウイルス感染症の“いま”についての10の知識」,
<https://www.mhlw.go.jp/content/000699304.pdf>（アクセス日：2021年1月26日）

厚生労働省（2020f）「新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言」
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000610566.pdf>（アクセス日：2021年1月22日）

野村康（2017）『社会科学の考え方 認識論、リサーチ・デザイン、手法』名古屋大学出版会

首相官邸（災害・危機管理情報）twitter, 2020年3月18日,
https://twitter.com/Kantei_Saigai/status/1240057648835252224?s=20（アクセス日：2021年1月22日アクセス）

鳥海不二夫・榊剛史・吉田光男（2020）「ソーシャルメディアを用いた新型コロナ禍における感情変化の分析」『人工知能学会論文誌』35（4），F-K45_1-7

中华人民共和国国家卫生健康委员会（2020）「2020年1月全国法定传染病疫情概况」

<http://www.nhc.gov.cn/jkj/s3578/202002/f1dd61c00acf4e5caf2f755cc48b9063.shtml>

(アクセス日: 2021年1月28日)

WHO (2020a) Novel Coronavirus (2019-nCoV) SITUATION REPORT-1 (21 JANUARY, 2020)

https://www.who.int/docs/default-source/coronaviruse/situation-reports/20200121-sitrep-1-2019-ncov.pdf?sfvrsn=20a99c10_4 (アクセス日: 2021年1月20日)

WHO (2020b) WHO Director-General's opening remarks at the media briefing on

COVID-19 (11 March 2020) <https://www.who.int/director-general/speeches/detail/who-director-general-s-opening-remarks-at-the-media-briefing-on-covid-19---11-march-2020> (アクセス日: 2021年1月20日)

付属資料 単純集計結果

調査 1: 【緊急調査】新型コロナウイルス感染症に関する国民アンケート

Q1、Q2 居住都道府県、市区町村 ※省略

Q3 同居人数

平均値 2.90 人

Q4 高齢・基礎疾患への該当（回答者本人）

高齢への該当	10.5%	いずれもあてはまらない	81.7%
基礎疾患への該当	9.1%		

Q5 同居家族（N=3921）

乳幼児との同居	17.9%	高齢者との同居	29.2%
小学生との同居	12.4%	基礎疾患がある人との同居	7.1%
中学生との同居	7.7%	いずれも該当しない	37.9%
高校生との同居	7.4%		

Q6 あなたのご家庭のお子さんの通学する学校は3月2日以降、休校になりましたか（N=817）

1. 休校になった	67.9%
2. 3月2日からではないが、休校になった	28.4%
3. 休校にはならなかった	3.7%

Q7 あなたが日常生活で、情報源としてよく利用しているものを教えてください

1. テレビ	85.4%
2. ラジオ	19.3%
3. 新聞	37.4%
4. 固定電話、スマホ等による通話・メール	38.8%
5. LINEによる通話やメール	39.9%
6. Twitter等SNS	38.3%
7. インターネット（ホームページなど）	70.9%
8. 市区町村の広報誌	24.6%
9. 市区町村などの相談窓	1.8%
10. 医療機関（相談、通院など）	8.0%
11. タウン誌	9.8%
12. 週刊誌など雑誌	7.4%
13. 親しい人との口コミ	24.0%
14. その他	0.3%
15. 特にない	1.9%

Q8 以下のメディアについて、ふだん1日平均どのくらい利用していますか

	テレビ	ラジオ	新聞	雑誌	パソコンでのインターネット	スマートフォン・従来型携帯電話でのインターネット
全く利用しなかった	6.2%	61.0%	48.3%	60.8%	29.8%	12.4%
30分未満	7.6%	19.1%	33.2%	28.8%	15.5%	15.3%
30分以上1時間未満	7.6%	6.8%	11.6%	5.4%	11.9%	14.4%
1時間以上1時間30分未満	8.4%	3.5%	2.9%	2.2%	10.1%	11.9%
1時間30分以上2時間未満	11.3%	2.4%	1.7%	1.0%	8.7%	11.0%
2時間以上3時間未満	18.4%	2.4%	1.0%	0.6%	8.7%	13.6%
3時間以上4時間未満	13.1%	1.5%	0.3%	0.4%	5.3%	7.7%
4時間以上5時間未満	10.4%	0.9%	0.4%	0.2%	3.4%	5.5%
5時間以上8時間未満	10.6%	1.3%	0.2%	0.3%	3.2%	4.7%
8時間未満	6.6%	1.1%	0.4%	0.4%	3.4%	3.5%

Q9 以下のメディアについて、この1週間程度、1日平均どのくらい利用しましたか

	テレビ	ラジオ	新聞	雑誌	パソコンでのインターネット	スマートフォン・従来型携帯電話でのインターネット
全く利用しなかった	6.5%	63.7%	51.0%	68.8%	32.4%	12.9%
30分未満	6.8%	15.7%	28.5%	19.6%	12.5%	13.7%
30分以上1時間未満	7.5%	6.6%	10.8%	5.4%	10.1%	11.6%
1時間以上1時間30分未満	8.8%	3.3%	4.0%	2.3%	9.6%	11.9%
1時間30分以上2時間未満	9.5%	2.4%	1.9%	1.4%	7.6%	10.4%
2時間以上3時間未満	16.2%	2.6%	1.4%	1.2%	8.8%	12.2%
3時間以上4時間未満	12.8%	1.7%	0.9%	0.4%	5.4%	7.9%
4時間以上5時間未満	9.8%	1.1%	0.7%	0.3%	4.0%	5.9%
5時間以上8時間未満	10.2%	1.5%	0.4%	0.3%	3.8%	5.7%
8時間未満	11.9%	1.3%	0.4%	0.4%	5.7%	7.8%

Q10 あなたは以下の言葉をご存知ですか

	聞いたことがあり、意味も理解している	聞いたことがあり、意味はなんとなくわかる	聞いたことはあるが、意味はわからない	聞いたことがない
1. 新型コロナウイルス	82.6%	15.7%	1.0%	0.7%
2. 接触感染	74.0%	22.3%	2.0%	1.8%
3. 飛沫感染	74.4%	20.6%	2.6%	2.4%
4. エアロゾル感染	31.9%	23.1%	19.5%	25.5%
5. 空気感染	65.4%	27.9%	4.6%	2.1%
6. 濃厚接触	68.1%	24.9%	4.1%	2.8%
7. クラスター感染	52.7%	24.9%	12.6%	9.8%
8. COIVID-19	40.5%	16.0%	13.3%	30.2%
9. PCR検査	45.4%	28.3%	13.1%	13.2%

Q11 年末から年始にかけて、中国の武漢で原因不明の肺炎や、新型コロナウイルスの存在が明らかになってから現在に至るまで、日本でウイルスが広がるかどうかについて、不安を感じましたか

		この日本では、 たは、 と いう 不安 を感じる	この日本では、 なは、 つ と いう 不安 は 感じる
2019年12月31日	中国で、武漢市が「原因不明の肺炎27人」を発表	37.0%	63.0%
2020年1月23日	中国で、武漢市を封鎖措置	58.2%	41.8%
2020年1月28日	国内で初の日本人患者を確認。武漢からのツアーバスの運転手	84.4%	15.6%
2020年2月5日	クルーズ船「ダイヤモンドプリンセス号」で集団感染が判明	85.9%	14.1%
2020年2月18日	「ダイヤモンドプリンセス号」に乗船した大学教授が感染対策のずさんさを動画告発	86.7%	13.3%
2020年2月19日	「ダイヤモンドプリンセス号」から陰性の乗客の下船が開始	88.9%	11.1%
2020年2月28日	政府が3月2日から春休みまで、小中高校などの臨時休校を要請	89.2%	10.8%
2020年3月	アンケートに回答している現在	91.4%	8.6%

Q12 年末から年始にかけて、中国の武漢で原因不明の肺炎や、新型コロナウイルスの存在が明らかになってから現在に至るまで、自分自身が感染する不安を感じましたか

		自分自身 が感染 する 不安 を感じ ました	自分自身 が感染 しない 不安 を感じ ました
2019年12月31日	中国で、武漢市が「原因不明の肺炎27人」を発表	15.2%	84.8%
2020年1月23日	中国で、武漢市を封鎖措置	18.8%	81.2%
2020年1月28日	国内で初の日本人患者を確認。武漢からのツアーバスの運転手	34.5%	65.5%
2020年2月5日	クルーズ船「ダイヤモンドプリンセス号」で集団感染が判明	36.8%	63.2%
2020年2月18日	「ダイヤモンドプリンセス号」に乗船した大学教授が感染対策のずさんさを動画告発	41.1%	58.9%
2020年2月19日	「ダイヤモンドプリンセス号」から陰性の乗客の下船が開始	52.4%	47.6%
2020年2月28日	政府が3月2日から春休みまで、小中高校などの臨時休校を要請	67.4%	32.6%
2020年3月	アンケートに回答している現在	73.7%	26.3%

Q13 新型コロナウイルス感染症を知ってから、あなたが具体的に不安を感じていることはありますか

	とても不安を感じる	やや不安を感じる	どちらともいえない	あまり不安を感じない	まったく不安を感じない
1 効果的な治療薬やワクチンがないこと	50.1%	31.3%	9.9%	6.2%	2.6%
2 ウイルスが目に見えないものであること	49.9%	27.1%	11.7%	7.2%	4.1%
3 検査（PCR 検査）を受けたくても受けられないこと	35.4%	30.1%	19.5%	9.6%	5.4%
4 中国で対策や医療が追い付かず、悲惨な様子を知ったこと	38.2%	30.3%	18.8%	8.6%	4.1%
5 持病や風邪などで、病院に行きたくても感染への不安を感じる	33.6%	31.9%	18.9%	10.4%	5.2%
6 いつまで続くのか、見通しがわからないこと	57.3%	27.5%	8.7%	3.9%	2.6%
7 自分が感染したら、自身の情報や行動内容が明らかにされること	40.6%	27.9%	18.7%	8.2%	4.6%
8 自分が感染したら、人から批判や差別をうけるかもしれないこと	41.6%	28.7%	17.8%	7.5%	4.3%

Q14 新型コロナウイルス感染症の問題に関して、あなたの生活に影響が及んでいるものはありますか

	全数	乳幼児・小学生がいる (N=1053)
1. こどもの学校再開や新学期などへの備え	18.8%	50.2%
2. 小さな子どもの保育先などの手配	6.1%	18.9%
3. 買い物での品薄・品切れに対する判断	60.4%	69.2%
4. 日常の通院などが気になり	25.9%	29.3%
5. 外出や移動が気になり	58.2%	66.2%
6. 冠婚葬祭への影響	12.1%	12.3%
7. コンサートや観劇、スポーツ観戦などへの影響	27.1%	20.2%
8. 仕事の仕方への影響	37.0%	40.4%
9. 経済や景気への影響	50.5%	48.3%
10. オリンピック・パラリンピック開催への影響	28.0%	26.4%
11. 漠然とした不安が続くこと	47.9%	48.9%
12. その他	2.3%	1.5%
13. 特になし	8.0%	3.8%

Q15 あなたは、自分自身が感染するか、不安はありますか

とても不安を感じる	24.9%
やや不安を感じる	41.7%
どちらともいえない	15.7%
あまり不安を感じない	13.4%
まったく不安を感じない	4.3%

Q16 あなたは、同居されている乳幼児が感染するか、不安はありますか (N=700)

とても不安を感じる	57.3%
やや不安を感じる	29.9%
どちらともいえない	6.6%
あまり不安を感じない	4.7%
まったく不安を感じない	1.6%

Q17 あなたは、同居されている高齢者が感染するか、不安はありますか (N=1145)

とても不安を感じる	31.9%
やや不安を感じる	39.4%
どちらともいえない	16.7%
あまり不安を感じない	8.5%
まったく不安を感じない	3.6%

Q18 あなたは、同居されている基礎疾患がある方が感染するか、不安はありますか (N=278)

とても不安を感じる	44.6%
やや不安を感じる	39.6%
どちらともいえない	9.0%
あまり不安を感じない	4.3%
まったく不安を感じない	2.5%

Q19 あなたご自身が、感染防止のために、特に気をつけて行っていることは何ですか

1. 手洗いやアルコール消毒	84.3%
2. 手すりやドアノブなどに触れた指先で、目・鼻・口を触らない	36.2%
3. うがい	52.8%
4. 咳エチケット・マスクの着用	66.0%
5. 屋内の喚起	33.5%
6. 良く触れるものの消毒や洗浄	20.9%
7. 同居者のタオル類の使い分け	9.9%
8. 定期的な体温の測定	14.1%
9. その他	0.8%
10. 特にない	7.0%

Q20 あなたは、現在マスクを使っていますか。それはどのような理由ですか

1. 新型コロナウイルスの予防のため	57.0%
2. 風邪やインフルエンザなどの予防のため	40.6%
3. 自分自身が飛沫を散らさないため	30.7%
4. 体調が悪いため	3.3%
5. 花粉症対策のため	28.9%
6. マスクをしなければならない雰囲気があるため	15.5%
7. マスクをするように職場などから指示や要請があるため	13.4%
8. その他	2.0%
9. マスクは使っていない	21.4%

Q21 新型コロナウイルス感染症を知ってから、あなたが利用や参加などを控えたものはありますか

	もともと予定がなかった	予定していたが実施や参加・利用をやめた	実施や参加・利用をした
1. 外食	45.6%	21.9%	32.6%
2. 飲み会・宴会	65.1%	23.7%	11.1%
3. 買い物	18.5%	13.7%	67.8%
4. 旅行	71.1%	19.9%	8.9%
5. 出張	85.9%	9.1%	4.9%
6. コンサートやライブ、演劇、映画の鑑賞	82.1%	13.3%	4.6%
7. スポーツ観戦	89.7%	8.3%	1.9%
8. スポーツジム	85.3%	9.4%	5.3%
9. 結婚式	92.1%	4.3%	3.5%
10. お葬式	91.8%	3.2%	4.9%
11. カラオケ	88.7%	6.7%	4.6%

Q22 新型コロナウイルス感染症を知ってから、あなたが利用を控えたものはありますか

	避けている	避けたいが、やむを得ず利用している	特に気にせず、利用している	この一カ月程度は利用する予定がなかった
1. 電車の移動	20.6%	15.5%	11.3%	52.6%
2. 混雑時の電車の移動	24.1%	11.6%	6.1%	58.3%
3. バスの移動	20.8%	9.0%	7.9%	62.3%
4. 混雑時のバスの移動	22.7%	6.5%	4.3%	66.4%
5. タクシーによる移動	19.2%	5.0%	7.1%	68.7%
6. 飛行機による移動	19.5%	5.3%	4.3%	70.9%
7. 新幹線による移動	20.1%	5.9%	4.7%	69.3%

Q23 新型コロナウイルス感染症を知ってから、現在までのお買い物は、普段と比べて変わりましたか

	通常よりも多めに買った	通常よりも多めに買ったかったが、買えていない	通常と変わらない	買っていない
1. 米やパンなどの主食	6.9%	3.4%	78.5%	11.1%
2. 水	3.7%	3.3%	60.2%	32.7%
3. マスク	7.7%	26.0%	28.2%	38.1%
4. アルコール消毒液	5.3%	19.3%	27.9%	47.6%
5. 除菌・抗菌用品（スプレー、シートなど）	6.8%	17.0%	33.7%	42.5%
6. トイレtpーパー	7.5%	11.0%	53.9%	27.7%
7. ティッシュ	6.8%	8.7%	54.8%	29.7%
8. 紙おむつなどベビー用品、介護用品	3.2%	4.0%	28.1%	64.7%
9. インスタント食品	7.0%	5.4%	59.0%	28.6%
10. 冷凍食品	5.3%	4.4%	60.3%	30.0%
11. 電池	2.1%	3.0%	43.6%	51.3%
12. チョコレートなどのお菓子	4.0%	3.9%	68.6%	23.4%

Q24 今回の、新型コロナウイルス感染症関連で役立った情報源は何ですか

1.	テレビ	80.7%
2.	ラジオ	12.6%
3.	新聞	28.7%
4.	固定電話、スマートフォン・従来型携帯電話による通話やメール	19.5%
5.	LINEによる通話やメール	11.9%
6.	Twitter、Facebook、InstagramなどのSNS	22.1%
7.	インターネット（ホームページなど）	51.4%
8.	市町村の広報誌	7.1%
9.	市町村などの相談窓口	1.6%
10.	医療機関（相談、通院など）	4.3%
11.	タウン誌	0.7%
12.	週刊誌など雑誌	1.5%
13.	親しい人との口コミ	12.5%
14.	その他	0.8%
15.	特になし	5.3%

Q25 あなたが、「マスク増産による原材料不足でトイレットペーパーが不足する」とのうわさを最初に知った情報源は何ですか

Twitter	10.1%	人との会話・口コミ	17.6%
Facebook	0.9%	その他	1.1%
Instagram	1.2%	聞いていない・わからない	7.8%
LINE	2.6%		
メール	0.4%		
テレビ	43.8%		
ラジオ	0.7%		
新聞	0.7%		
電話	0.2%		
インターネット(ホームページなど)	12.9%		

Q26 「マスク増産による原材料不足でトイレットペーパーが不足する」とのうわさを最初に知った情報源以外に、このうわさを知った情報源があれば、すべてあげてください(N=4334)

1.	Twitter	8.7%
2.	Facebook	3.2%
3.	Instagram	3.9%
4.	LINE	8.0%
5.	メール	2.9%
6.	テレビ	24.8%
7.	ラジオ	5.9%
8.	新聞	12.3%
9.	電話	1.0%
10.	インターネット（ホームページなど）	22.3%
11.	人との会話・口コミ	19.0%
12.	その他	1.3%
13.	全問（Q25）以外にはない	27.0%

Q27 あなたが、実際にトイレットペーパーなどの品切れが発生している状況を、最初に知った情報源は何ですか

店頭で見かけて知った	30.2%
Twitter	6.3%
Facebook	0.7%
Instagram	0.9%
LINE	1.9%
メール	0.4%
テレビ	31.7%
ラジオ	0.5%
新聞	0.7%
電話	0.1%
インターネット	7.6%
人との会話・口コミ	13.3%
その他	0.8%
聞いていない・わからない	5.0%

Q28 実際にトイレットペーパーなどの品切れが発生している状況を、最初に知った情報源以外に、この状況を知った情報源があれば、すべてあげてください

1. 店頭で見かけて知った	21.9%	8. ラジオ	5.2%
2. Twitter	8.3%	9. 新聞	9.9%
3. Facebook	2.7%	10. 電話	0.7%
4. Instagram	3.7%	11. インターネット(ホームページなど)	17.8%
5. LINE	6.5%	12. 人との会話・口コミ	18.7%
6. メール	2.1%	13. その他	0.7%
7. テレビ	29.7%	14. 全問(Q27)の情報源以外にはない	21.2%

Q29 店頭でトイレットペーパーの品切れが発生していることを知って、あなたはどのような対応をしましたか

自宅に少ないので購入しようとした	19.4%
特に理由はないが、家族などに言われて購入しようとした	4.0%
念のため購入しようとした	12.9%
当面必要な分はあるので、無理に購入しようと考えなかった	55.3%
店舗を探し回った	4.4%
インターネット通販で購入しようとした	2.0%
その他	2.7%
品切れが発生していることを知らなかった	7.7%

Q30 結果的にトイレットペーパーを購入できましたか (N=1741)

希望通り、トイレットペーパーは購入できた	36.8%
希望通りではなかったが、トイレットペーパーは購入できた	27.9%
購入できなかった	28.9%
その他	6.4%

Q31 店頭でトイレットペーパーなどの品切れや買い占めが発生していることを知った際に、ご家族など近親者との相談をしましたか (N=4339)

相談をして行動した	26.8%
特に相談はしなかった	73.2%

Q32 「マスク増産による原材料不足でトイレトペーパーが不足する」とのうわさ以外に、今回の新型コロナウイルス感染症に関連したうわさ話を聞いたことがありますか

	聞いたことがあり、本当のことだと信じた	聞いたことはあるが、本当のことだと信じなかった	聞いたことはない
1. 新型コロナウイルスは熱に弱く、26～27度のお湯を飲むと殺菌効果がある	6.5%	44.1%	49.4%
2. 花崗岩が効く	2.0%	31.9%	66.1%
3. 新型コロナウイルスは中国で作られた生物兵器である	14.1%	38.5%	47.4%
4. 新型コロナウイルスの感染予防にアオサが効果的	3.9%	33.9%	62.3%
5. 新型コロナウイルスにビタミンDが効く	3.4%	21.8%	74.8%
6. 中国人観光客が関西空港から病院に搬送され、検査前に逃げた	8.4%	20.2%	71.3%
7. 新型コロナウイルスを中国が「日本肺炎」と広めようとしている	9.6%	26.1%	64.3%
8. 東京オリンピックが中止される	12.6%	52.9%	34.5%
9. トイレトペーパーは中国でつくっているのが不足する	5.1%	50.1%	44.8%
10. トイレトペーパーの在庫は足りている	69.9%	15.8%	14.3%

Q33 新型コロナウイルス感染症に関する、ここまでの政府の対応について、あなたはどのように感じになりますか

	良いと思う	まあ良いと思う	どちらともいえない	やや悪いと思う	悪いと思う
1. 感染症対策（体制や手順、基準など）の整備	7.7%	15.4%	29.9%	20.7%	26.1%
2. 状況や対策などの情報提供	6.9%	19.7%	28.5%	20.9%	24.0%
3. 国内での感染を防ぐ水際対策	5.8%	11.1%	26.3%	20.8%	36.0%
4. クルーズ船集団感染への対応	5.4%	11.0%	27.1%	20.6%	35.9%
5. 感染に関する検査（PCR検査）の体制	5.0%	9.3%	28.1%	22.4%	35.2%
6. 小・中学校や高校などの臨時休校	12.5%	21.5%	34.2%	14.7%	17.1%
7. イベントなどの自粛の要請	23.2%	28.3%	27.6%	9.3%	11.6%

Q34 テレビの報道（情報番組を含む）における、新型コロナウイルス感染症関連の情報提供について、お聞きます

	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない
1. 事実を適切に伝えている放送が多かった	6.6%	24.6%	40.6%	16.9%	11.3%
2. 医学や保健・衛生の難しい点を、わかりやすく伝えられていた	6.2%	29.8%	40.0%	15.1%	8.9%
3. どのように予防対策や行動をすれば良いか、わかりやすかった	6.8%	31.7%	38.1%	14.1%	9.2%
4. 国民（視聴者）に対して、安心さや冷静さにつながる放送が多かった	4.7%	16.4%	39.4%	20.9%	18.6%
5. 何が正しい情報なのか、わかりにくかった	18.6%	27.9%	38.7%	10.3%	4.6%
6. 不安を煽るような映像や表現が多かった	22.9%	26.8%	35.8%	9.4%	5.1%

Q35 あなたが暮らす地域で、新型コロナウイルス感染症の状況などの説明を聴く場合、どのような人が伝えることが、あなたの安心感につながりますか

1. 知事や市区町村など自治体の首長	41.2%
2. 現場で担当する部局長など	19.7%
3. 有識者	22.7%
4. キャスター・アナウンサー	11.7%
5. その他	4.7%

Q36 あなたが暮らす地域で、新型コロナウイルス感染症の状況などの説明を聴く場合、どのような情報の伝え方をすることが、あなたの安心感につながりますか

1. 把握できた事実は、すべて公表する	50.3%
2. 重要度が高い情報を整理して公表する	42.2%
3. 最低限のポイントのみを公表する	6.9%
4. その他	0.6%

F1 性別

男性	50.0%
女性	50.0%

F2 年齢

平均 45.03 歳

調査 2: 【第 2 回】新型コロナウイルス感染症に関する国民アンケート

SC1 居住地 ※省略

SC2 同居人数

平均 2.91 人

SC3 高齢・基礎疾患への該当（回答者本人）

高齢者（65 歳以上）	10.6%
基礎疾患がある	9.5%
いずれもあてはまらない	81.3%

SC4 同居家族

乳幼児	18.1%
小学生	11.8%
中学生	7.2%
高校生	6.9%
高齢者（65 歳以上）	29.4%
基礎疾患	7.6%
該当しない	38.3%

Q1 あなたは以下の言葉をご存知ですか

	意味も理解している	意味はなんとなく分かる	意味はわからないが、	聞いたことがない
1. 新型コロナウイルス	84.4%	14.2%	0.7%	0.7%
2. 接触感染	76.6%	20.1%	1.8%	1.5%
3. 飛沫感染	77.2%	19.1%	1.9%	1.7%
4. エアロゾル感染	34.6%	24.8%	20.6%	20.1%
5. 空気感染	67.3%	27.0%	3.9%	1.8%
6. 濃厚接触	72.8%	22.8%	2.7%	1.7%
7. クラスター感染	69.0%	23.2%	5.5%	2.4%
8. COVID-19	50.5%	17.3%	12.4%	19.9%
9. PCR検査	59.5%	27.9%	7.9%	4.7%
10. オーバーシュート	52.4%	28.1%	13.1%	6.3%
11. ロックダウン	57.4%	28.4%	9.6%	4.6%

Q2. あなたは、これまでのコロナウイルス感染症に関する出来事や呼びかけなどについて、下記のことを知っていますか

		不 知 つ て い て 不 安 を 感 じ る	不 知 つ て い る が い 不 安 を 感 じ な い	知 ら な い
2020/1/23	中国で、武漢市を封鎖措置	63.1%	32.9%	4.0%
2020/1/28	国内で初の日本人患者を確認。武漢からのツアーバスの運転手	71.8%	24.4%	3.7%
2020/2/5	クルーズ船「ダイヤモンドプリンセス号」で集団感染が判明	72.2%	25.8%	2.0%
2020/2/19	「ダイヤモンドプリンセス号」から陰性の乗客の下船が開始	75.9%	22.0%	2.2%
2020/2/28	政府が3月2日から春休みまで、小中高校などの臨時休校を要請	75.2%	22.9%	1.9%
2020/3/6	PCR検査に、公的医療保険の適用を開始	65.0%	29.9%	5.1%
2020/3/13	「緊急事態宣言」を可能とする特別措置法が成立	73.7%	22.2%	4.1%
2020/3/19	政府専門家会議で「原則、学校再開の方針」と発言	74.5%	21.6%	4.0%
2020/3/24	東京オリンピック・パラリンピックの1年程度の延期を決定	69.4%	28.4%	2.1%
2020/3/25	東京都知事が会見で、週末の外出を控えることなどを要請	80.5%	17.4%	2.1%
2020/3/30	タレント志村けんさんの死去	87.7%	10.7%	1.6%

Q3 新型コロナウイルスの存在が明らかになってから現在に至るまで、日本でウイルスが広がるかどうかについて、不安を感じましたか

		と 日 本 で ウ イ ル ス が 広 が る の で は、 と 日 本 で ウ イ ル ス が 広 が る の で は、 不 安 を 感 じ た	と 日 本 で ウ イ ル ス が 広 が る の で は、 と 日 本 で ウ イ ル ス が 広 が る の で は、 不 安 を 感 じ な か つ た
2020/1/23	中国で、武漢市を封鎖措置	49.2%	50.8%
2020/1/28	国内で初の日本人患者を確認。武漢からのツアーバスの運転手	72.0%	28.0%
2020/2/5	クルーズ船「ダイヤモンドプリンセス号」で集団感染が判明	74.0%	26.0%
2020/2/19	「ダイヤモンドプリンセス号」から陰性の乗客の下船が開始	80.7%	19.3%
2020/2/28	政府が3月2日から春休みまで、小中高校などの臨時休校を要請	78.5%	21.5%
2020/3/6	PCR検査に、公的医療保険の適用を開始	77.6%	22.4%
2020/3/13	「緊急事態宣言」を可能とする特別措置法が成立	84.6%	15.4%
2020/3/19	政府専門家会議で「原則、学校再開の方針」と発言	83.4%	16.6%
2020/3/24	東京オリンピック・パラリンピックの1年程度の延期を決定	80.3%	19.7%
2020/3/25	東京都知事が会見で、週末の外出を控えることなどを要請	89.6%	10.4%
2020/3/30	タレント志村けんさんの死去	91.6%	8.4%

Q4 新型コロナウイルスの存在が明らかになってから現在に至るまで、自分自身が感染する不安を感じましたか

		自分自身が感染する不安を感じた	自分自身が感染する不安は感じなかった
2020/1/23	中国で、武漢市を封鎖措置	22.1%	77.9%
2020/1/28	国内で初の日本人患者を確認。武漢からのツアーバスの運転手	32.3%	67.7%
2020/2/5	クルーズ船「ダイヤモンドプリンセス号」で集団感染が判明	32.0%	68.0%
2020/2/19	「ダイヤモンドプリンセス号」から陰性の乗客の下船が開始	42.2%	57.8%
2020/2/28	政府が3月2日から春休みまで、小中高校などの臨時休校を要請	48.4%	51.6%
2020/3/6	PCR検査に、公的医療保険の適用を開始	48.9%	51.1%
2020/3/13	「緊急事態宣言」を可能とする特別措置法が成立	58.8%	41.2%
2020/3/19	政府専門家会議で「原則、学校再開の方針」と発言	58.5%	41.5%
2020/3/24	東京オリンピック・パラリンピックの1年程度の延期を決定	56.8%	43.2%
2020/3/25	東京都知事が会見で、週末の外出を控えることなどを要請	71.4%	28.6%
2020/3/30	タレント志村けんさんの死去	78.6%	21.4%

Q5 新型コロナウイルスの存在が明らかになってから現在に至るまで、自分自身が感染で重篤化したり死ぬのではないかと、不安を感じましたか

		自分自身が感染で重篤化したり、死ぬのではないかと不安を感じた	自分自身が感染で重篤化したり、死ぬのではないかと不安は感じなかった
2020/1/23	中国で、武漢市を封鎖措置	18.1%	81.9%
2020/1/28	国内で初の日本人患者を確認。武漢からのツアーバスの運転手	22.7%	77.3%
2020/2/5	クルーズ船「ダイヤモンドプリンセス号」で集団感染が判明	23.8%	76.2%
2020/2/19	「ダイヤモンドプリンセス号」から陰性の乗客の下船が開始	28.8%	71.2%
2020/2/28	政府が3月2日から春休みまで、小中高校などの臨時休校を要請	32.3%	67.7%
2020/3/6	PCR検査に、公的医療保険の適用を開始	34.4%	65.6%
2020/3/13	「緊急事態宣言」を可能とする特別措置法が成立	41.4%	58.6%
2020/3/19	政府専門家会議で「原則、学校再開の方針」と発言	40.4%	59.6%
2020/3/24	東京オリンピック・パラリンピックの1年程度の延期を決定	39.9%	60.1%
2020/3/25	東京都知事が会見で、週末の外出を控えることなどを要請	52.2%	47.8%
2020/3/30	タレント志村けんさんの死去	68.0%	32.0%

Q6 あなたは、自分自身が感染することについて、どの程度不安を感じますか

とても不安を感じる	44.4%
やや不安を感じる	39.0%
どちらとも言えない	8.2%
あまり不安を感じない	6.2%
まったく不安を感じない	2.2%

Q8 あなたは、同居されている乳幼児が感染するか、不安はありますか (N=710)

とても不安を感じる	73.1%
やや不安を感じる	19.6%
どちらとも言えない	5.1%
あまり不安を感じない	1.4%
まったく不安を感じない	0.8%

Q9 あなたは、同居されている高齢者が感染するか、不安はありますか (N=1154)

とても不安を感じる	51.2%
やや不安を感じる	35.3%
どちらとも言えない	8.2%
あまり不安を感じない	3.8%
まったく不安を感じない	1.5%

Q10 あなたは、同居されている基礎疾患がある方が感染するか、不安はありますか (N=298)

とても不安を感じる	64.8%
やや不安を感じる	26.2%
どちらとも言えない	5.4%
あまり不安を感じない	2.3%
まったく不安を感じない	1.3%

Q11 あなたは、現在の「自粛要請」についてどう思いますか (単位：%)

	とても そう思う	やや そう思う	どちら とも言 えない	あまり そう思 わない	ま つた く そ う 思 わ な い
1. 感染症予防のために、やむを得ない	68.5%	23.8%	5.3%	1.4%	1.0%
2. 医療崩壊を防ぐために、やむを得ない	70.0%	21.5%	6.6%	0.9%	1.0%
3. 経済活動を抑えてしまうので、よくない	14.2%	21.0%	31.8%	20.4%	12.6%
4. かぜの一種なのに、大げさだ	7.9%	7.3%	13.2%	22.4%	49.2%
5. 飲食業、観光業が衰退するので、よくない	12.3%	17.1%	33.2%	20.5%	16.9%
6. 食料品が購入できなくなるのではないかと不安	18.1%	29.6%	24.4%	19.1%	8.7%
7. 仕事がなくなるのではないかと不安	18.6%	21.5%	27.3%	17.0%	15.5%
8. 外出できないのはつらい	21.7%	28.8%	21.7%	15.4%	12.3%
9. 人と会えないのはつらい	17.9%	24.4%	24.1%	17.9%	15.7%
10. 自粛は強制ではないので、無理に活動を抑止する必要はない	8.4%	8.4%	20.7%	26.9%	35.6%
11. 学校が再開されるのだから、大したことはない	7.1%	6.2%	19.6%	25.1%	42.0%

Q12 現在、東京都など大都市において、都市封鎖（ロックダウン）の可能性があるとされるようになりました。これについてどう思いますか

	とてもそう思う	ややそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	まったくそう思わない
1. 感染症予防のために、やむを得ない	58.9%	29.1%	9.3%	1.5%	1.2%
2. 医療崩壊を防ぐために、やむを得ない	60.5%	28.1%	9.0%	1.1%	1.2%
3. 経済活動を抑えてしまうので、よくない	12.5%	17.3%	29.4%	22.1%	18.7%
4. かぜの一種なのに大げさだ	7.4%	6.3%	14.9%	21.1%	50.3%
5. 飲食業、観光業が衰退するので、よくない	10.0%	14.2%	31.5%	22.6%	21.7%
6. 食料品が購入できなくなるのではないかと不安	17.4%	27.2%	25.9%	18.6%	10.9%
7. 仕事がなくなるのではないかと不安	17.3%	21.1%	28.1%	17.3%	16.1%
8. 外出できないのはつらい	17.8%	25.3%	22.4%	16.7%	17.8%
9. 人と会えないのはつらい	15.8%	22.3%	24.0%	17.6%	20.3%
10. 自粛の段階と、活動の抑止がどう変わるのかわからない	16.7%	24.9%	34.2%	11.9%	12.3%

Q13 あなたは、海外における次のことを知っていますか

	不安を感じている	不安を感じない	知らない
1. アメリカでは都市封鎖（ロックダウン）が行われている	64.3%	23.5%	12.2%
2. イギリスでは都市封鎖（ロックダウン）が行われている	61.5%	24.5%	14.0%
3. イタリアでは都市封鎖（ロックダウン）が行われている	64.4%	24.6%	11.0%
4. スペインでは都市封鎖（ロックダウン）が行われている	61.2%	23.9%	14.9%
5. ロシアでは都市封鎖（ロックダウン）が行われている	49.7%	23.3%	26.9%
6. 世界の約4割の人口が自宅待機となっている	51.8%	18.8%	29.4%
7. イタリアでは1万人以上がなくなった	74.6%	16.4%	9.0%
8. 台湾では、ビッグデータを活用した感染症対策を行っている	40.0%	27.6%	32.5%
9. 韓国では、PCR検査を多く行っている	50.3%	34.1%	15.6%
10. 韓国では、感染者の早期発見・早期隔離を行っている	47.5%	31.4%	21.0%

Q14 あなたが暮らす地域で、「3週間（21日間）程度の間、人の外出や移動を制限する措置などが行なわれた場合」、自分自身に影響が大きいと思うのはどのようなことですか

1.	仕事や商売が続けられなくなる	33.5%
2.	自宅に待機してもやることなく暇をもてあます	28.5%
3.	親・兄弟など親族との行き来ができなくなる	22.8%
4.	友人などとの交流機会が減る	25.8%
5.	家族だけの時間が増え、摩擦が多くなる	13.1%
6.	子どもの勉強の遅れや学力が低下する	15.4%
7.	食料をはじめ生活必需品が不足する	55.7%
8.	経済全体が大きな打撃を受ける	59.3%
9.	その他	2.2%
10.	特にない	10.6%

Q15 あなたの現在の心身の状況について、以下の項目にどの程度あてはまるかお答えください

	とても そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり そう 思わない	ま ったく そう 思わ ない
1. 新型コロナウイルス感染症への対策を行うことに疲れた	15.8%	30.5%	21.0%	22.3%	10.4%
2. 品切れなどでほしいものが手に入らず、ストレスが増えた	18.8%	32.5%	20.0%	19.0%	9.7%
3. テレビが新型コロナウイルスの話題ばかりで疲れた	23.0%	32.8%	19.9%	15.7%	8.6%
4. 外出を控えているため、運動不足だ	14.6%	23.5%	26.9%	22.6%	12.4%
5. 外出を控えているため、心身の調子が悪い	10.0%	16.8%	27.9%	27.5%	17.8%
6. 仕事に関するストレスが減った	6.9%	8.2%	38.4%	23.3%	23.1%
7. 友人と会えず、ストレスが増えた	9.1%	15.9%	30.8%	22.2%	22.0%
8. 外食できず、ストレスが増えた	9.9%	17.1%	29.9%	21.7%	21.4%

Q16 3月25日、東京都知事が「感染爆発の重大局面」とし、週末の不要不急の外出等を控えることを要請しました。これを見聞きして、この週末をどう行動しようと思いましたか

1.	社会の深刻な状況を感じて、外出を控えたいと思った	60.8%
2.	自身への危険の高まりを感じて、外出を控えたいと思った	50.5%
3.	仕事や商売があり、外出しないわけにはいかないと考えた	19.6%
4.	用事や予定があり、外出しないわけにはいかないと考えた	16.2%
5.	自分にはあまり関係がないことだと思った	9.6%
6.	その他	1.7%
7.	特に何も感じなかった	5.3%
8.	この要請を知らなかった	2.5%

Q17 3月25日（水曜日）の東京都知事が記者会見から、週末を迎える3月27日（金曜日）までのお買い物は、普段と比べて変わりましたか

	通常よりも多めに買った	通常よりも多めに買いたいが、思っていたが、買えていない	通常と変わらない	買っていない
1. 米やパンなどの主食	8.8%	4.5%	70.6%	16.1%
2. 水	4.9%	4.2%	49.6%	41.3%
3. マスク	4.7%	17.8%	19.6%	57.9%
4. アルコール消毒液	4.4%	14.6%	20.9%	60.1%
5. 除菌・抗菌用品（スプレー、シートなど）	4.7%	13.7%	25.1%	56.4%
6. トイレットペーパー	6.5%	6.8%	48.6%	38.1%
7. ティッシュ	5.5%	6.0%	48.9%	39.6%
8. 紙おむつなどベビー用品、介護用品	3.4%	4.0%	27.1%	65.4%
9. インスタント食品	9.4%	6.7%	53.4%	30.4%
10. 冷凍食品	7.2%	6.0%	55.2%	31.6%
11. 電池	2.6%	3.9%	37.2%	56.3%
12. チョコレートなどのお菓子	5.6%	5.4%	62.0%	27.0%

Q18 先週末の3月28日（土曜日）と29日（日曜日）に、あなたは主にどのように過ごしましたか

1. 普段の土日よりも外出をすることが多かった	3.2%
2. 普段の土日よりも家にいることが多かった	47.5%
3. 普段の土日と変わりなかった	49.4%

Q19 普段の土日よりも家にいることが多かった理由は何ですか（N=2231）

1. 外出自粛要請があったから	58.0%
2. 感染するのではと人混みが怖かったから	72.6%
3. 天気が悪かったから	18.5%
4. 行きたかったお店が閉まっていたから	2.8%
5. 家族に止められたから	3.6%
6. 何となく	6.4%
7. その他	1.5%
8. 特に予定がなかったから	7.6%

Q20 先週末の3月27日（金曜日）～30日（月曜日）の間に、以下のような外出をしましたか

	3/27 (金)	3/28 (土)	3/29 (日)	3/30 (月)
1. 仕事	55.8%	25.1%	16.5%	50.4%
2. 出張	1.0%	1.0%	0.8%	0.9%
3. 外食	5.7%	9.2%	7.8%	4.0%
4. 近隣での用事や買い物	23.4%	33.2%	33.1%	21.1%
5. ショッピングセンター・アウトレットやショッピング街での買い物	3.8%	7.4%	7.6%	4.1%
6. お花見	0.8%	1.0%	1.4%	0.6%
7. 日帰りのドライブ、観光など	1.2%	1.9%	2.4%	0.9%
8. 宿泊をともなうドライブ、観光など	0.8%	1.0%	0.9%	0.5%
9. スポーツジムやフィットネス、エステなど	1.6%	1.8%	1.2%	1.2%
10. スポーツをしたり公園で遊ぶ	1.9%	3.0%	3.4%	1.7%
11. 近隣の散歩	7.7%	10.3%	10.4%	7.7%
12. コンサートやスポーツ感染	0.4%	0.5%	0.3%	0.3%
13. 映画館での映画鑑賞	0.5%	0.3%	0.5%	0.3%
14. 図書館など文化施設の利用	0.6%	1.2%	0.9%	0.4%
15. その他	1.7%	2.0%	2.1%	2.1%
16. まったく外出しなかった	20.1%	30.4%	35.9%	23.7%

Q21 ここ1週間くらいの間、あなたが利用や参加などを控えているものはありますか

	がも なと も と 予 定	利 が 予 定 し て い た ・ 利 用 を や め 参 加 し た	用 実 施 し た 参 加 ・ 利
1. 外食	68.4%	14.7%	16.8%
2. 飲み会・宴会	82.8%	13.4%	3.8%
3. 買い物	28.7%	10.3%	61.0%
4. 旅行	89.5%	8.0%	2.5%
5. 出張	94.0%	4.3%	1.7%
6. コンサートやライブ、演劇、映画の鑑賞	92.0%	6.7%	1.3%
7. スポーツ観戦	94.9%	4.2%	0.9%
8. スポーツジム	90.1%	6.4%	3.4%
9. 結婚式	95.4%	3.3%	1.3%
10. お葬式	95.6%	2.4%	2.0%
11. カラオケ	94.3%	4.1%	1.6%

Q22 ここ1週間くらいの間、あなたが利用を控えているものはありますか

	避けている	避けたいが、やむを得ず利用している	特に気にせず、利用している	利用する予定がなかった
1. 電車の移動	22.4%	12.4%	4.4%	60.9%
2. 混雑時の電車の移動	24.4%	8.6%	2.6%	64.4%
3. バスの移動	21.9%	6.6%	3.0%	68.6%
4. 混雑時のバスの移動	23.1%	4.1%	1.7%	71.1%
5. タクシーによる移動	20.6%	3.1%	2.7%	73.7%
6. 飛行機による移動	20.9%	2.2%	1.5%	75.4%
7. 新幹線による移動	21.4%	2.7%	1.6%	74.3%

Q24 3月20日（金曜日・祝日）～22日（日曜日）の間のお買い物は、普段と比べて変わりましたか

	通常よりも多めに買った	通常よりも多めに買いたかったが、買えていない	通常と変わらない	買っていない
1. 米やパンなどの主食	6.0%	3.2%	68.3%	22.5%
2. 水	3.4%	3.4%	39.3%	53.9%
3. マスク	2.6%	15.2%	16.6%	65.6%
4. アルコール消毒液	2.6%	12.5%	17.7%	67.3%
5. 除菌・抗菌用品（スプレー、シートなど）	2.8%	11.0%	20.1%	66.0%
6. トイレットペーパー	3.8%	5.2%	37.0%	54.0%
7. ティッシュ	3.5%	4.5%	36.4%	55.6%
8. 紙おむつなどベビー用品、介護用品	2.4%	3.0%	23.7%	70.9%
9. インスタント食品	5.6%	4.8%	49.4%	40.2%
10. 冷凍食品	4.7%	4.1%	49.7%	41.5%
11. 電池	2.0%	2.9%	26.6%	68.5%
12. チョコレートなどのお菓子	4.3%	3.8%	56.8%	35.1%

Q25 新型コロナウイルス感染症を知ってから、あなたが具体的に不安を感じていることはありますか

	とても不安を感じる	やや不安を感じる	どちらとも言えない	あまり不安を感じない	まったく不安を感じない
1. 効果的な治療薬やワクチンがないこと	61.1%	25.8%	8.1%	3.0%	2.0%
2. ウイルスが目に見えないものであること	59.3%	23.5%	10.5%	4.3%	2.4%
3. 検査（PCR検査）を受けたくても受けられないこと	38.1%	29.1%	21.1%	8.1%	3.7%
4. 持病や風邪などで、病院に行きたくても感染への不安を感じる	37.0%	30.7%	19.0%	9.2%	4.1%
5. 感染者が増えて病院などが対応能力を超えてしまうこと	56.7%	27.5%	10.8%	2.9%	2.1%
6. 日本でも、感染者の爆発的な増加が起こり得ること	63.0%	24.1%	8.7%	2.3%	1.9%
7. 感染拡大で都市の封鎖などの緊急事態が起こり得ること	52.6%	29.1%	12.7%	3.4%	2.2%
8. いつまで続くのか、見通しがわからないこと	69.4%	19.4%	7.8%	1.8%	1.6%
9. 自分が感染したら、自身の情報や行動内容が明らかにされること	42.9%	24.6%	20.0%	7.5%	4.9%
10. 自分が感染したら、人から批判や差別をうけるかもしれないこと	42.9%	27.4%	19.6%	5.8%	4.3%
11. 人々が自分勝手な行動を始めて、社会の秩序が保てなくなる	44.4%	30.1%	18.4%	4.4%	2.6%
12. 世界的な経済活動の停滞や、株価の急落などにより不況におちいること	50.9%	28.5%	15.0%	3.1%	2.5%

Q26 新型コロナウイルス感染症の問題に関して、あなたの生活に影響が及んでいるものはありますか

	全数	乳幼児・小学生がいる (N=1039)
1. 子どもの学校再開や新学期などの備え	20.1%	51.2%
2. 小さな子どもの保育先などの手配	6.3%	20.8%
3. 買い物での品薄・品切れに対する判断	55.5%	62.2%
4. 日常の通院などが気がかり	27.9%	29.9%
5. 外出や移動が気がかり	47.9%	54.0%
6. 冠婚葬祭への影響	9.4%	8.7%
7. コンサートや観劇・スポーツ観戦などへの影響	13.2%	8.8%
8. 仕事の仕方への影響	36.7%	39.5%
9. 経済や景気への影響	40.9%	36.5%
10. オリンピック・パラリンピック開催への影響	8.8%	8.2%
11. 漠然とした不安が続くこと	46.0%	46.6%
12. その他	2.1%	1.3%
13. 特になし	9.3%	4.6%

Q27 あなたご自身が、感染防止のために、特に気をつけて行っていることは何ですか

1. 手洗いやアルコール消毒	84.5%
2. 手すりやドアノブなどに触れた指先で目・鼻・口を触らない	39.9%
3. うがい	50.3%
4. 咳エチケット・マスクの着用	66.4%
5. 屋内の換気	42.1%
6. 良く触れるものの消毒や洗浄	21.8%
7. 同居者のタオル類の使い分け	10.2%
8. 定期的な体温の測定	19.8%
9. その他	0.7%
10. 特にない	7.2%

Q28 Q27 で示した感染防止の行動の他に、感染症の拡大などを防ぐために、あなたが行っていることは何ですか

1. 人が密集するような場所へ行くことを避ける	79.0%
2. 人と接触する場合は、距離をとる	41.4%
3. 仕事の仕方を変えて、外出や出張を減らす	15.0%
4. 食料品など日常の買い物の回数を減らす	32.9%
5. ショッピングセンターやショッピング街などに行かない	40.9%
6. ドライブや観光などに行かない	37.1%
7. スポーツジムやフィットネスなどに行かない	33.2%
8. スポーツをしたり公園で遊ぶことをしない	19.5%
9. 知人や友人の家を訪問しない	33.3%
10. 食事会や飲み会などに行かない	50.2%
11. 必要以上に買いだめしたり、多くの店で買い漁ったりしない	45.3%
12. 微熱があったり、体調不良の際は会社を休む・外出をしない	32.5%
13. 必要以上に診療所や病院に行かない	39.2%
14. 感染症検査の趣旨や手続きを理解して対応する	22.9%
15. 会議や集会では、換気や風通しを良くする	21.3%
16. ニュースや解説などの情報は自分が信頼できる情報源を選ぶ	39.0%
17. うわさや伝聞にまどわされないようにする	42.6%
18. その他	0.4%
19. 特にない	7.8%

Q29 あなたは、Q27やQ28で行っている行動や、大切だと考えていることについて、事態が収束するまでの期間、実行し続けることができますか (N=4484)

続けることができると思う	37.7%
まあできると思う	45.4%
どちらともいえない	13.0%
あまりできると思わない	2.5%
続けることができないと思う	1.3%

Q30 今回の新型コロナウイルス感染症に関連したうわさ話を聞いたことがありますか

	聞いたことがあり、 本当のことだと信じた	聞いたことはあるが、 本当のことだと信じなかった	聞いたことはない
1. コロナウイルスはインフルエンザよりも危険ではないと思う	20.5%	37.3%	42.2%
2. 近々、都市封鎖（ロックダウン）が行われると政府関係者から聞いた	24.1%	31.6%	44.2%
3. 若い人は新型コロナウイルスに感染しても死んだり、重症化することはない	25.7%	56.5%	17.8%
4. 政府は新型コロナウイルスの感染者数を正確に発表していない	31.9%	30.8%	37.3%
5. 政府は新型コロナウイルスの死者数・感染者数を低く抑えるためにPCR検査をしていない	34.3%	34.3%	31.4%

Q31 今回の、新型コロナウイルス感染症関連で役立った情報源は何ですか

1. テレビ	82.3%
2. ラジオ	11.8%
3. 新聞	30.8%
4. 固定電話、スマートフォン・従来型携帯電話による通話やメール	12.4%
5. LINEによる通話やメール	11.9%
6. Twitter、Facebook、InstagramなどのSNS	20.1%
7. インターネット（ホームページなど）	48.5%
8. 市町村の広報誌	6.5%
9. 市町村のホームページ	14.9%
10. 市町村などの相談窓口	1.6%
11. 医療機関（相談、通院など）	5.1%
12. タウン誌	0.8%
13. 週刊誌など雑誌	1.0%
14. 親しい人との口コミ	10.7%
15. その他	1.1%
16. 特になし	5.9%

Q32 テレビの報道（情報番組を含む）における、新型コロナウイルス感染症関連の情報提供について、お聞きします

	そう思う	ややそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない
1. 事実を適切に伝えている放送が多かった	11.0%	32.1%	38.7%	10.3%	7.9%
2. 医学や保健・衛生の難しい点を、わかりやすく伝えられていた	11.0%	35.9%	36.6%	10.1%	6.3%
3. どのように予防対策や行動をすれば良いか、わかりやすかった	12.6%	37.9%	34.7%	9.3%	5.5%
4. 国民（視聴者）に対して、安心や冷静さにつながる放送が多かった	7.9%	19.7%	40.8%	17.3%	14.3%
5. 何が正しい情報なのか、わかりにくかった	17.9%	28.7%	38.7%	10.6%	4.0%
6. 不安を煽るような映像や表現が多かった	23.4%	28.0%	34.8%	9.1%	4.7%

Q33 以下のメディアについて、この1週間程度、1日平均どのくらい利用しましたか

	テレビ	ラジオ	新聞	雑誌	パソコンでのインターネット	スマートフォン・従来型携帯電話でのインターネット
全く利用しなかった	6.3%	67.6%	52.0%	81.8%	37.6%	18.1%
30分未満	6.8%	12.8%	25.0%	9.6%	10.6%	13.6%
30分以上1時間未満	8.4%	5.8%	10.6%	3.0%	10.3%	12.3%
1時間以上1時間30分未満	9.7%	3.3%	4.6%	1.6%	8.6%	11.0%
1時間30分以上2時間未満	9.9%	2.7%	3.0%	1.2%	6.9%	9.0%
2時間以上3時間未満	15.6%	2.3%	1.4%	0.9%	8.3%	9.9%
3時間以上4時間未満	12.6%	1.4%	1.0%	0.5%	4.9%	8.1%
4時間以上5時間未満	9.0%	1.0%	0.8%	0.5%	3.4%	5.2%
5時間以上8時間未満	9.1%	1.4%	0.5%	0.3%	3.2%	4.8%
8時間以上	12.6%	1.7%	1.0%	0.6%	6.2%	8.0%

Q34 あなたの現在のお仕事をお答えください

1. 会社員（正社員）	37.8%
2. 会社員（契約社員）	4.9%
3. 公務員	7.4%
4. 自営業・自由業	6.7%
5. 会社役員・経営者	1.4%
6. パート・アルバイト	14.0%
7. 学生	1.8%
8. 専業主婦（主夫）	14.3%
9. その他	1.8%
10. 無職	9.9%

Q35 あなたの職場では、今回の新型コロナウイルス感染症への対応として、テレワーク（在宅ワーク）を実施していますか（N=3075）

利用している	9.4%
職場で利用している人もいるが、自分自身は利用していない	11.6%
職場で行われていない	79.0%

Q36 テレワーク（在宅ワーク）による仕事の仕方をどう感じますか（N=288）

良好である	31.9%
まあ良好である	34.7%
どちらともいえない	20.1%
あまり良好ではない	9.4%
良好ではない	3.8%

Q37 テレワーク（在宅ワーク）による仕事で、良いと感じることはどのようなことですか（N=192）

1. 外出による感染の心配を避けることができること	78.1%
2. 混雑する電車やバスに乗らなくてよいこと	59.9%
3. 移動や通勤にあてていた時間が有効に使える	59.4%
4. 自分の生活時間と仕事のバランスがとりやすいこと	44.8%
5. 在宅する子どもや高齢者の面倒をみられること	21.4%
6. 体調不良がある際に、無理に出勤する必要がないこと	36.5%
7. 集中して仕事ができること	30.2%
8. 会社が自分の健康や安全を考えてくれていると感じること	25.0%
9. その他	1.6%
10. 特になし	2.1%

Q38 テレワーク（在宅ワーク）による仕事で、不都合や課題を感じることはどのようなことですか（N=38）

1. 職場と比べて机や椅子など仕事がしやすい状態ではないこと	52.6%
2. 用品や機器が不足すること	26.3%
3. インターネットなどの通信環境が不十分であること	28.9%
4. セキュリティ面の不安があること	23.7%
5. 勤務時間が不明確になること	23.7%
6. 生活と仕事のけじめがつきにくくなること	50.0%
7. 仕事に関する報告や相談がしにくいこと	34.2%
8. 会話や交流が減ること	34.2%
9. 顧客との連絡や調整がしにくいこと	31.6%
10. 出勤したい用件が自由にできないこと	26.3%
11. 全ての仕事が在宅で済ませられるわけではないこと	47.4%
12. その他	0.0%
13. 特になし	7.9%

Q39 あなたの職場では、今回の新型コロナウイルス感染症への対応として、時差出勤を実施していますか（N=3075）

利用している	9.9%
職場で時差出勤している人もいるが、自分自身は時差出勤していない	13.2%
職場で時差出勤は行われていない	76.9%

Q40 新型コロナウイルス感染症に関する、ここまでの政府の対応について、あなたはどのように感じになりますか

	良いと思う	まあ良いと思う	どちらともいえない	やや悪いと思う	悪いと思う
1. 感染症拡大の防止策	9.0%	18.4%	26.9%	20.7%	25.0%
2. 国内での感染を防ぐ水際対策	8.1%	14.9%	24.4%	21.2%	31.3%
3. 状況や対策などの情報提供	8.4%	20.6%	32.8%	18.5%	19.7%
4. 感染に関する検査（PCR検査）の体制	7.5%	14.1%	30.4%	20.8%	27.3%
5. 感染者への医療体制	9.3%	20.1%	35.4%	17.9%	17.4%
6. 小・中学校や高校などの学校再開への対応	8.7%	19.4%	38.0%	17.0%	16.9%
7. イベントなどの自粛の要請	18.7%	28.7%	24.3%	12.3%	15.9%
8. オリンピック・パラリンピック延期決定への対応	26.0%	28.6%	23.9%	8.4%	13.1%
9. 企業の資金繰り支援や家計への現金給付などの経済対策	9.2%	13.6%	30.0%	16.5%	30.7%

性別

男性	50.0%
女性	50.0%

年齢

平均 45.08 歳

同居人数

1人	16.4%
2人	29.3%
3～5人	50.6%
6人以上	3.8%

居住地

北海道	2.1%
東北	12.8%
関東	14.9%
中部	21.3%
近畿	12.8%
中国	10.6%
四国	8.5%
九州	17.0%